

クラウド型
国際会計&ERPサービス

GLASIAOUS

(グラシアス)

事例集



GLASIAOUS

GLASIAOUS

INDEX

事業会社

興和株式会社

大塚製薬株式会社

YAMASA ASIA OCEANIA CO., LTD.

ピーロート・ジャパン株式会社

光洋マテリア株式会社

株式会社太知ホールディングス

株式会社エイジス

VALUENEX 株式会社

株式会社阪急阪神ビジネストラベル

テナック株式会社

株式会社フリークアウト・ホールディングス

ハウス食品グループ本社株式会社

トレノケートホールディングス株式会社

会計事務所・税理士法人

グローバルイノベーションコンサルティング株式会社

CaN International 国際会計事務所

BDO 税理士法人

税理士法人日本経営

辻・本郷税理士法人

永峰・三島コンサルティング

Kompass Accounting Co., Ltd.

株式会社東京コンサルティングファーム

GLASSIA ODS

CASE
STUDY

事業会社



M&Aで規模が拡大した 国内グループ会社の管理会計を強化 キャッシュフロー計算書も 容易に作成可能に

興和株式会社

商社・医薬品メーカーとして知られる興和株式会社は、近年M&Aによって事業を拡大し、国内グループ会社が40社に増大。これらのグループ各社における管理会計の高度化を目的として、ビジネスエンジニアリング (B-EN-G) の「GLASIAOUS」をグループ横断で導入した。管理会計に必要な各社のデータの統合作業を効率化することで、帳票作成の迅速化を実現し、経営指標の可視化も行いやすくなっている。

 興和株式会社

興和株式会社

<https://www.kowa.co.jp/>

創業 1894年

資本金 38億4,000万円

従業員数 7,922名 (2022年3月現在: 連結)

事業内容 繊維・機械・建材などの輸出入や三國間貿易を行う商社として、また医薬品・医療用機器・ビジョンユニット・省エネ・創エネ関連製品などのメーカーとして幅広い事業を展開

創業以来、繊維商社機能および医薬品メーカー機能を中心に事業を拡大してきた。昨今では、名古屋の地域を代表する企業として地元のホテル経営なども手掛け、多角的に事業を展開する。現在は、グループビジョンとして「健康×環境」を掲げ、ウェルビーイングや持続可能な社会を追求するべく事業活動を展開している。

キーワード 管理会計の高度化／国内グループ会社のモニタリング／キャッシュフローの可視化／財務分析の効率化／会計システムのクラウド化

導入製品 GLASIAOUS

POINT 国内グループ会社の管理会計は、GLASIAOUSのデータ集約機能を用い、既存の各社の財務会計システムはそのままに、そこからの情報を収集して一元化し、各社の経営情報を把握する仕組みを構築した。

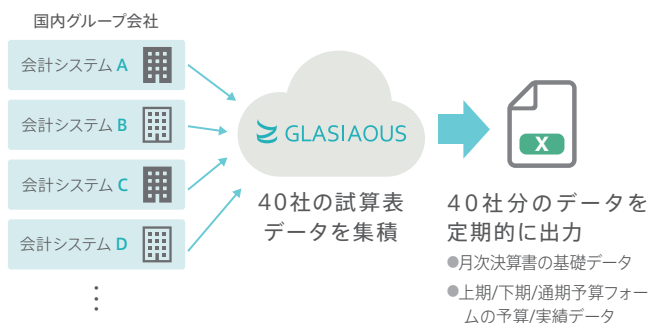
導入前の課題

- M&Aによって国内グループ会社が増加する一方、会社は異なる会計システムを使っており、情報を横並びで比較することが困難であった
- 会計情報が各社から別々の帳票で報告されるため、管理会計用にデータを統合する作業に手間がかかっていた
- 国内統轄部のミッションとして40社の国内グループ会社の財務状況をモニタリングする必要があった



導入後の効果

- 各社の会計情報を自動で収集する仕組みを構築したことで、管理会計用に情報を統合する作業が効率化された
- 財務分析のためのデータとしてグラフで可視化された帳票を手軽に作成できるようになった
- 従来の会計システムでは作成できなかったキャッシュフロー計算書をワンクリックで作成できるようになった



既存の会計システムを生かしつつ国内グループ各社のモニタリングを強化

M&Aによる事業拡大で 管理会計用のデータ収集が複雑に

商社および医薬品メーカーとして事業を展開する興和では、現在グループ全体で「健康と環境」を軸とする多彩な事業活動を行っている。商社事業では、生活関連・産業関連領域で持続可能な社会を目指すことに軸足を置きつつ事業を拡大している。医薬品事業では、家庭でおなじみの医薬品を開発・販売するほか、昨今はスマート医療領域にも進出。これらの事業のほかにも、ホスピタリティ事業として、地元の有名ホテルや結婚式の運営も手掛ける。

事業の拡大にあたってM&Aを実施し、現在国内グループ会社は40社を超える。それに伴って同社では、新たに各社をハンドリングしつつ、単なる足し算の経営にとどまらない、各事業間を横断した事業展開を進めていく必要性が生じている。そこで同社が着目したのが管理会計の強化である。

M&Aで参画した各子会社は業態も規模も多岐にわたる。また会計システムも別々の製品を導入しており、出力される会計帳票もバラバラであった。そのため、管理会計用のデータを集計する際には、各社の会計システムから出力される帳票の数値を専用のシステムに手入力して、統一帳票上の指標や勘定科目に置き換える作業が必要だった。「システム設定作業がM&Aや組織再編を行うたびに発生し、業務を担当する国内統轄部に大きな負担がかかっていました。また、国内グループ会社の会計システムが管理会計に適したものではなかったため、財務分析に必要な指標やデータが見えづらいという課題も抱えていました」と、国内統轄部で管理を担当する担当課長は当時の状況を説明する。

全社的なリプレイスではなく 管理会計専用のシステムを導入

こうした課題を踏まえて同社は、当初は全社の会計システム刷新を検討したという。しかし、大きなコストがかかってしまうことに加え、グループ各社で事業規模も異なり、会計システムの変更が各社の業務に与える影響も大きかったことから、別の方法を模索することにした。そこで同社の目に留まったのが、GLASIAOUSであった。

「ちょうどグループ会社の1社が会計システムとしてGLASIAOUSの導入を検討しており紹介を受けました。話を聞くと、複数拠点の既存の会計システムから情報を集約して、グループ会社をモニタリングするのに適した仕組みを備えていることがわかったのです」と、担当課長は選定の経緯を振り返る。

複数の会計システムを比較・検討したが、GLASIAOUSを選んだ決め手となったのは、子会社の財務諸表を横断的に見られるグルーピング機能や操作性、さらに柔軟な帳票作成を実現するための機能が標準機能として提供されていることであったという。

想定した全体像としては次の通りだ。各社が利用する財務会計システムをそのまま生かし、新たな管理会計用のシステムとしてGLASIAOUSを導入する。業務フローは、各社が月次で会計システムからGLASIAOUSにデータをアップロードすると、自動的に統一の帳票が作成される。それを定期的に出力して指定の場所に保存しておき、本社の国内統轄部や連結決算担当部門がグループ全体の経営状況のモニタリングを行うというものだ。

2022年4月から導入の準備に入り、B-EN-Gのエンジニアと連携して導入作業を進め、7月に全社で稼働を開始した。導入にあたっては、各社から出てくる帳票の勘定科目を統一するために少なからず苦労も発生したというが、「システムに関することはもちろん、会計に関する処理についても的確なアドバイスをもらえました。それが課題解決につながり、最短のスケジュールで導入できました」と導入担当者は語る。

キャッシュフロー計算書を ワンクリックで作成

導入の成果として、国内統轄部ではグループ会社をモニタリングするための帳票作成に関する作業工数が従来の半分以下に削減されたという。特に帳票の設定変更業務は2021年度だけで11回発生しているが、「今後M&Aで会社が増えても新たに設定をし直す作業がなくなることを考えると、相当な省力化になると試算しています」と同社の担当役員は話す。

機能面では、「Excelで作成したデータをGLASIAOUSに取り込む作業がコピー＆ペーストのコマンド操作で完結するので、かなり時間が短縮されています。これは会計システムではあまり見かけない便利な機能で、とても助かっています」と導入担当者は評価する。

管理会計用の帳票では、BS/PLや製造原価報告書以外に、GLASIAOUSの帳票作成機能をより活用することで財務分析指標も出力可能になり、経営状況を可視化しやすくなったという。ほかにも、手作業で作っていたキャッシュフロー計算書がワンクリックで出せるようになり、財務分析用の帳票のバリエーションも増えている。

グループ各社に対する導入効果についても、「オペレーションも今までとほとんど変わりません。さらに、以前より一部の子会社からは経営分析指標を見たいという声もあったので、メリットは大きいと思われます」と担当課長は語る。

今後同社では、GLASIAOUSで出力された管理会計データを、月次の事業部の会議やグループ会社による四半期ごとの決算報告会議の資料としても使えるようにしたいとの意向を示す。グループ全体の管理会計の高度化を見据え、「モニタリング機能の活用的高度化に加えて、各社や事業部のトップにも、GLASIAOUSで出力される財務会計データを経営戦略の策定や業績改善に有効活用してほしいと思います」と同社の担当役員は話す。



在庫管理から会計処理まで 一気通貫で管理する仕組みを タイとミャンマーで構築 月次締め処理も効率化し 残業時間を大幅削減

大塚製薬株式会社 Otsuka Nutraceutical (Thailand) Co., Ltd Otsuka Myanmar Co., Ltd.

国内発売開始からロングヒットを続ける健康飲料である「ポカリスエット」で知られる大塚製薬株式会社（以下、大塚製薬）。同製品を含む健康飲料事業のさらなる拡大を目的に、同社ではタイおよびミャンマーへ設置した拠点に、ビジネスエンジニアリング (B-EN-G) のクラウド型国際会計&ERPサービス「GLASIAOUS (グラスias)」を導入。見たいデータを見たいフォーマットで日本からでも簡単に確認できる仕組みを実現し、経理・財務にまつわる管理業務の効率化を実現している。



大塚製薬株式会社

<https://www.otsuka.co.jp/>

創 業 1964年8月10日
資 本 金 200億円
従 業 員 数 5,713名 (2019年12月31日現在)
事 業 内 容 医薬品、臨床検査、医療機器、食料品、化粧品
の製造、製造販売、販売、輸出ならびに輸入を事業として展開。

1964年、設立。「Otsuka-people creating new products for better health worldwide (世界の人々の健康に貢献する革新的な製品を創造する)」という企業理念に基づき、人々の健康を身体全体で考え、疾病の治療から日々の健康増進までを目指した「医療関連事業」と「ニュートラシューティカルズ関連事業」の両輪で、トータルヘルスケアカンパニーとして事業を展開している。

キーワード 在庫管理と会計処理の統合／業務効率化による作業時間の短縮／二重入力をなくしミスを低減／迅速な承認のための基盤構築／日本からのタイムリーなデータの確認

導入製品 GLASIAOUS

POINT 日本側からの確認作業を効率化するためにクラウドサービスを検討。在庫管理から会計処理までを一気通貫できること、現地でサポートが受けられることのほかに、コスト感や直感的に使える操作性などを評価してGLASIAOUSの採用を決定。

導入前の課題

- Excelで行っている在庫管理と会計システムへの連携が手入力であるため、作業時間がかかりミスも発生
- Excelで在庫管理をしているため、ファイルの消失によってデータが消えてしまうリスクがあった
- 海外拠点を立ち上げるごとに適用できる共通化した会計システムの仕組みを構築したい



導入後の効果

- 各部署のデータを担当者に依頼することなく、単一のシステム上で確認できるようになった
- 締め処理が効率化され、夜遅くまで行っていた残業がなくなり労働時間が削減された
- 見たいデータを見たい形で日本側からでもすぐに確認できるようになった

日本から現地の情報を即座に確認できるように 海外拠点立ち上げ時の共通の課題解決にも期待

在庫管理から会計処理までを 一気通貫で管理できる仕組みづくりへ

疾病の診断から治療までをサポートする医療関連事業および健康維持・増進をサポートするニュートラシューティカルズ関連事業の2つの事業を展開する大塚製薬。1998年からは現地代理店や関係会社を通じて、健康飲料である「ポカリスエット」をタイで販売開始。2017年5月には、健康飲料・食品事業の拡大を目的とした大塚ニュートラシューティカル（タイランド）株式会社 / Otsuka Nutraceutical (Thailand) Co., Ltd（以下、ONTC）を設立。

ONTCでは、日々の業務における承認ワークフローの中でサインすべき書類が多かったため、そうした書類を減らし、会社のトップがいつ、どこにいても承認できる体制をいかに確立できるかが大きな課題となっていた。そこで当初はクラウド型の業務アプリ開発ツールやExcelなどを活用することで承認ワークフローの仕組みを構築し、書類へのサインを効率化していた。

承認フローは一部システム化したものの、一方残っていたのは在庫管理の課題だ。在庫はExcelベースで管理しており、データを会計システムに連携する際には手入力のひと手間があり、さらに確認や承認のフローが存在していた。このような管理体制では、手入力に伴うミスが発生するほか、Excelファイルが壊れるとデータが消えてしまいかねないことも懸念点だった。

ONTCのManaging Director 串田高歩氏は、「在庫管理から会計処理までを1つのシステムで一気通貫して管理するための抜本的な対策が必要でした」と語る。

日本からの管理性の良さが要件 オンサイトのサポートでスムーズに導入

こうした背景から大塚製薬ではONTCへ導入するシステムの選定を開始した。クラウドベースで日本側からでも簡単に確認できることを前提に、在庫管理ができ、OEM製造する製品の原価の計算ができること、また現地でサポートが受けられることなどを要件に検討を行った。そのほか現実的なコスト感、直感的に使える操作性などを総合的に評価した結果、選ばれたのがGLASIAOUSであった。

GLASIAOUSの導入に関してONTCのFinance & Accounting Manager オーンウィパ ブーンアナンタブツ氏は、「当初は、レポートの出力やタイ語への変換、ワークフローの理解などに少し時間がかかり苦労しましたが、現地の導入パートナー企業（GLASIAOUSコンソーシアム会員でもあるBBS (Thailand) Co., Ltd.）に、オンサイトで対応してもらえたのでスムーズに導入でき、現在問題なく利用できています」と話す。

会計処理を正確かつ迅速に実行 経理部門の残業削減に

GLASIAOUSの導入効果について、ONTCのAccounting Officer イントゥオン ノイパ氏は次のように話している。

CASE STUDY

製薬業

大塚製薬株式会社



大塚製薬株式会社
財務会計部
OIAA事業部財務担当 課長
佐藤 伸氏



Otsuka Nutraceutical (Thailand) Co., Ltd
Managing Director
串田 高歩氏



Otsuka Nutraceutical (Thailand) Co., Ltd
Finance & Accounting Manager
オーンウィパ
ブーンアナンタブツ氏
(Ms. Ornwipa Boon-Anantabutsri)



Otsuka Nutraceutical (Thailand) Co., Ltd
Accounting Officer
イントゥオン ノイパ氏
(Ms. Intuan Noipa)

「1つのシステムで各部署のデータをすぐに確認できるので本当に便利です。例えば請求書の数字を確認したい場合、以前は棚卸と生産管理が別々のExcelシートで管理されていたので、それぞれの担当者に聞かなければ数字が分かりませんでした。GLASIAOUSはクリック1つで必要な情報を確認できます」

また以前は、請求書の情報が経理担当者までなかなか伝わらなかったが、GLASIAOUSを導入したことで迅速かつ正確に処理できるようになった。ブーンアナンタブツ氏は、「請求書の入力から会計処理、銀行システムへのデータのアップロードまでを自動化できるので、経理業務が楽になりました。以前は、締め処理で夜の10時、11時まで残業していましたが、GLASIAOUSを導入してからは残業がなくなり定時で帰れるようになりました」と話す。

串田氏は、「請求書などの書類は、紙に出力して保管していましたが、GLASIAOUSを導入したことでペーパーレス化が実現でき、保管場所も不要になりました。GLASIAOUSは、非常にフレキシブルなシステムだと思っていましたが、私が想像する以上に現場の担当者が助かっています」と話している。

GLASIAOUSの横展開により 海外拠点の課題解消に期待

大塚製薬では、ミャンマーにおける健康飲料事業の拡大を目的に、2018年10月に設立された大塚ミャンマー株式会社 / Otsuka Myanmar Co., Ltd.（以下、大塚ミャンマー）においても、在庫管理と会計システムの統合にGLASIAOUSを採用している。大塚製薬の佐藤伸氏は、「いくつかの候補を検討しましたが、ほかの選択肢はありませんでした」と話す。

大塚ミャンマーでは、当初はインドネシアから商品を仕入れ、1つの代理店に販売していく計画だった。しかし計画が変更になり、大塚ミャンマー自身で在庫を持ち、複数の小売店で販売していくことになった。すなわち複数の拠点で在庫を抱え複数の小売店への売掛金を管理することが必要になり、Excelなどをを用いた管理は困難になることが予想された。そこでGLASIAOUSの採用を決定したのだ。

このように大塚製薬では、タイやミャンマーでの事業を展開するとともに、GLASIAOUSによって現地の情報の管理と統制を強化している。

「見たいデータを手元のPC上から見られるようになっていきますし、ほかに必要な情報があれば、拠点の担当者に依頼してGLASIAOUS上でテンプレートを活用して効率的にレポートを作成してもらえます。見たいデータを見たいフォーマットで日本から確認できるので本当に助かります」と佐藤氏は語る。

大塚製薬では、直近の約4年でアジア地域において複数の海外拠点の立ち上げを行ってきており、その中で佐藤氏は「毎回の会計システムを採用するかが課題でした。そこで迷わず“これ”という仕組みが必要であり、今後もGLASIAOUSにはその役割を期待しています」と話している。



自計化で迅速な経営判断が可能に クラウドの利点を生かして コロナ禍のリモートワークを実現し 業務を止めず事業を継続

YAMASA ASIA OCEANIA CO., LTD. (本社：ヤマサ醤油株式会社)

ヤマサ醤油株式会社のタイ現地法人、YAMASA ASIA OCEANIA CO., LTD. (以下、YAO) では、業務の効率化を目的に、ビジネスエンジニアリング (B-EN-G) のクラウド型国際会計&ERPサービス「GLASIAOUS」を導入。受発注・在庫管理などの業務の効率化、また、自計化 (自社会計への移行) の実現によってリアルタイムに財務状況を把握し、財務諸表に基づいた迅速な経営判断を可能にした。



YAMASA ASIA OCEANIA CO., LTD.

<https://www.yamasa.co.th/>

(本社：ヤマサ醤油株式会社 <https://www.yamasa.com/>)

設立 2016年11月

事業内容 家庭用および業務用の醤油、各種調味料の
タイ国内販売および輸出版売。

本社は千葉県銚子で1645年に創業し、醤油、各種調味料などの製造から販売までの一貫した事業を展開するヤマサ醤油株式会社のタイ現地法人。アジア・オセアニア地区の需要の高まりを受けて設立された。日本製だけでなく、現地の嗜好に合わせた商品開発を行いながら、タイを中心に、アジア・オセアニア各国に事業展開している。

キーワード ▶ 受発注および在庫状況の容易な把握と管理／顧客からの問い合わせに対する迅速な回答／自計化によるリアルタイムな財務状況把握／業務効率化／リモートワーク (在宅勤務) の実現／業務の属人化の解消／事業継続体制の強化

導入製品 ▶ GLASIAOUS

POINT ▶ 会計と業務を現地会計システムとExcelで管理していたために発生していた人的ミスを防ぐことができること、会計事務所に依頼していた会計業務を自社会計化できる (自計化) こと、業界およびYAO特有の取引に対応できることなどを評価してGLASIAOUSを選定。GLASIAOUSコンソーシアム会員である会計事務所の支援がスムーズなシステム導入の実現につながった。

導入前の課題

- 受発注・在庫管理業務は、タイ製の会計システムとExcelで管理していたためミスが多く、時間と工数がかかっていた
- 記帳代行で会計処理を会計事務所に委託していたので、タイムリーな財務状況の把握ができず自計化が必要だった
- 現地会計システムでは、業界およびYAO特有のさまざまな取引に対応できなかった



導入後の効果

- 発注、仕入、出荷、在庫管理など受発注関連業務がGLASIAOUS上でシームレスに連携され、業務を効率化
- 自計化の実現でリアルタイムに財務状況を把握し、財務諸表に基づいた迅速な経営判断が可能に
- クラウドベースなので在宅で作業が可能となり、コロナ禍での業務継続にも貢献

受発注・在庫管理業務の効率化・正確性向上と 財務情報のリアルタイム把握を実現

受発注・在庫管理関連業務の効率化と 自社会計への移行が課題だった

これまでYAOでは、各種業務にタイ製の会計システムパッケージを用いていた。しかし、受発注や在庫管理などの業務ではExcelで個別に管理を行い、別途会計システムへ入力する必要があったため、担当者への大きな作業負担となっており、ミスが生じることも多々あったという。さらに、同システムでは、業界およびYAO特有の取引に対応しておらず、例えばインボイス発行では、ボックス単位のみで、ボトル単位での発行ができなかったため、Excelを併用していた。

また、YAOのVice President北野建氏は「会計処理を外部の会計事務所に委託していたために財務状況をリアルタイムに把握することが困難であり、決算書のドラフトが出力されて初めて全体を把握できる状況でした。記帳に関しても、会計事務所はYAOの内情までは知らないため、記帳内容をチェックしたり、修正したりするための時間と工数がかかっていました。会計事務所に記帳内容の問い合わせをした場合、回答まで1~2日程度かかることも普通でした。また、本社からの問い合わせの回答にも時間がかかっていたため、将来的に計画している連結決算実施のためには、効率的な仕組みづくりが求められていました」と振り返る。

BBSタイのサポートで GLASIAOUSをスムーズに導入

YAOでは、こうした課題を解決するにあたってGLASIAOUSコンソーシアム会員である会計事務所のBBS (Thailand) Co., Ltd. (以下、BBSタイ) に業務改善コンサルティングを依頼。BBSタイでは、いくつかの会計業務パッケージを比較検討した結果、2019年12月にGLASIAOUSの採用を提案した。YAOがGLASIAOUSを選定した理由は、Excelで業務を個別管理していたために発生していたミスを防ぐことができること、会計事務所に依頼していた経理業務を自社でできる(自計化)ようになること、業界およびYAO特有の取引に対応できることだった。

業界およびYAO特有の取引という点では、ロット単位で製造日や賞味期限の管理ができること、ケース数や容量(キロリットル)、ボトルなどの複数の単位で在庫管理ができることを評価。また、日本本社、海外顧客、YAOの三者が関係する三国間貿易に対応していることが採用のポイントとなった。もちろん、多言語・多通貨に対応していることは大前提だった。

GLASIAOUS導入プロジェクトは、2020年1月にキックオフ。1~2カ月かけて、YAOとBBSタイと一緒にシステム設計を行い5月に本番稼働した。同時に、1月~4月までBBSタイが会計業務委託を受け、記帳代行を実施。5月からはYAOで入力を開始(自計化を実現)している。

BBSタイ Directorの山本貴文氏は、「北野氏に海外での会計システム管理の経験があり、我々も開発期間に会計業務委託を受け、YAO様の内情を把握していたことで、スムーズな導入ができました。時間をかけて、クライアント様と共にシステムのあるべき姿を熟考し、設計に取り組んだことが功を奏しました」と話す。

CASE STUDY

食品

YAMASA ASIA OCEANIA CO., LTD. (本社: ヤマサ醤油株式会社)



YAMASA ASIA OCEANIA CO., LTD.
Vice President
北野 建氏



YAMASA ASIA OCEANIA CO., LTD.
Accounting & Administration Dept.
Manager
アリーラット ワッタナチャン氏



YAMASA ASIA OCEANIA CO., LTD.
Accounting & Administration Dept.
Officer
ワッチャラ スワミン氏



BBS (Thailand) Co., Ltd.
Director 公認会計士 (日本)
山本 貴文氏

資金繰りをリアルタイムに把握し 経営リスク軽減にも寄与

GLASIAOUSの導入により、リアルタイムで詳細な業務管理を実現し、シームレスに会計へ取引データが流れるようになり、また、その幅広い機能を活かして業務全体が効率化された。YAOの経理マネージャーのアリーラットワッタナチャン氏は「GLASIAOUSへの移行では、特に苦労はありませんでした。新しいシステムに切り替えるまでには時間がかかると感じていましたが、GLASIAOUSは使いやすく、すぐに慣れることができました。固定資産の減価償却費、外貨評価換算や前払費用の取崩処理は、以前は手作業で計算していましたが、GLASIAOUSはボタン1つで計算してくれるので本当に便利です」と話す。

出荷手配および在庫管理におけるGLASIAOUSの導入効果を、これらの業務を担うYAO経理担当のワッチャラ スワミン氏は次のように評価する。「出荷処理のときにロットを選択できるので、ストックレポート(在庫残高一覧)を出力すると、そのロットのアイテムがいくつ残っているかがすぐに分かります。どのロットのアイテムをどの顧客に販売したかも分かるので、顧客や担当営業からの問い合わせにもすぐに回答できるようになりました」自計化したことで、リアルタイムに財務状況を把握できるようになり、財務諸表に基づいた迅速な経営判断が可能になっている。「特にコロナ禍の現在、資金繰りの状況をリアルタイムに把握できるので、資金管理面のリスク軽減と効率化を実現することができました」(北野氏)

従前のシステム利用にはオフィスに出社しなければならなかったが、GLASIAOUSはクラウドサービスであることから、リモートワークが容易にできることもメリットの1つだ。北野氏は、「コロナ禍でも在宅勤務にシフトし、従業員の安全を守りながらも出荷を止めることがなかったので、顧客からの信頼を失うことなく、難局を乗り越えることができています。

さらに、オンラインで操作方法をトレーニングできたため、バックアップの目的で他のメンバーにもリモートで業務を教えることができ、業務継続体制を迅速に整備することができました。その結果、業務の属人化の解消にもつなげることができました」と話す。

今後、YAOでは、会社全体の損益計算書(PL)だけでなく、取引先別や事業別のPLを作成して、どの事業や顧客から利益を得ているのかなど会社業績を詳細に分析するための仕組みを実現する計画だ。また、現在は管理部門の利用が中心だが、営業や開発・生産部門がシステムを活用して、売上や商品別の状況についてそれぞれに必要な分析ができるように利用を広げていければと話している。

「本社のシステム更改が終わったタイミングで、連結決算実施に向けて始動する見込みです。GLASIAOUSの導入により本社から海外拠点の情報をタイムリーに閲覧できる仕組みは備わったため、連結決算実施のために本社の会計システムとGLASIAOUSをデータ連携させる仕組みの検討が今後必要になると考えています。一方、YAOにおいてはさらなる業務効率化と財務状況の見える化を図り、会社としてより良い判断ができる仕組みの実現に向け、より一層のサポートをBBSタイとB-EN-Gに期待しています」(北野氏)



ドイツ親会社が日本の会計情報を 迅速に把握可能に クラウド&ペーパーレス化で コロナ禍での在宅勤務にも対応

キーワード ペーパーレス化／承認フローのデジタル化／レポート作成の自動化／二重入力防止によるミスの軽減／Excelからの入力の効率化／人材の柔軟性の強化／親会社への報告の効率化

導入製品 GLASIAOUS

POINT CSVデータを使って基幹システムと連携できること、ドイツ本社に英語のレポートを提出するために日本語と英語に対応していることなどを主な要件に製品を検討し、採用を決定。損益計算書や貸借対照表を独自フォーマットで柔軟に出力できることなども評価している。

ピーロート・ジャパン株式会社

ドイツに親会社があり、日本を代表するワイン直販会社であるピーロート・ジャパン株式会社（以下、ピーロート・ジャパン）では、基幹システム上で稼動している会計システムの刷新を目的に、ビジネスエンジニアリング (B-EN-G) のクラウド型国際会計&ERPサービス「GLASIAOUS」を採用した。手作業でのレポート作成や、データの二重入力によるミスなどの問題を解消し、会計業務の大幅な効率化を実現した。

PIEROTH

ピーロート・ジャパン株式会社

<https://www.pieroth.jp/>

創業 1969年4月1日
資本金 9億5,000万円
事業内容 ダイレクトセールス事業部、ビジネスセールス事業部、ワインバー事業部、テレフォンセールス事業部、インターネット事業部、通信販売事業部により、ワインの輸入販売、およびワインバーの運営を事業として展開。

1974年5月17日に設立。「お客様のために極上の体験を作り出すこと」というビジョンに基づき、国内36箇所の営業所、約600名の従業員が、日本全国20万人以上の顧客に、デイリーワインから有名シャトーを含む最高級ワインまで、世界16カ国から輸入した1,600種類以上のワインを提供している。

導入前の課題

- 元帳や貸借対照表などアウトプットのすべてが紙のため業務が非効率
- 承認フローが紙ベースのために、回覧から承認まで時間がかかる
- 本社向けのレポート作成で必要だった言語や通貨の変換作業が負担



導入後の効果

- 知りたい情報を場所や端末を問わず、多言語、多通貨で容易に把握できるように
- 外国人の経営者が直接データを英語で確認、親会社への報告も迅速に
- 経理スタッフ5名で対応していた業務を4人で回すことが可能に

基幹システムとの連携や多言語、多通貨対応を評価 コロナ禍での経理業務に欠かせない存在に

元帳や仕訳など、アウトプットのすべてが紙のため業務が非効率に

ピーロート・ジャパンは、ドイツで340年の歴史を持つ老舗ワイン商社「Pieroth Wein AG」の日本法人だ。ワインの輸入販売を主な事業としながら、現在ではワインバーの運営も事業として展開。新型コロナウイルス感染拡大以降はワインのネット販売にも力を入れ、顧客に卓越したサービスと価値を提供することを目指している。

そうした同社の業務を支える基幹システムはオフコンで稼働しており、導入からかなりの年月が経過していた。付随する会計システムも導入から20年以上使用され、近年の業務内容にはそぐわないものだったという。「最大の課題は、元帳や仕訳帳、損益計算書など諸々の帳票がすべて紙でのアウトプットにしか対応していないことでした」とピーロート・ジャパンの経理課マネージャーである中田学氏は振り返る。

当然ながら帳票の回覧や連絡から承認のフローも必然的に紙ベースで行われ、それらの帳票は最終的にファイルにして保管される。決算が終わるごとに新しい資料と古い資料を入れ替え、古い資料を倉庫に移動させることが必要になるが、ダンボール詰めされた書類の運搬作業もかなりの負担になっていたという。

こうした経緯も含めピーロート・ジャパンでは会計システムの刷新へと乗り出すことになる。会計システムは、もともと基幹システムと連携する仕組みとして構築されていたものの、切り出して単体でのリプレースが可能であったため、新たな会計システムの導入プロジェクトを進めることとなった。

多言語への対応のほか、PLやBSの独自フォーマットへの対応を評価

新たな会計システムの選定では何がポイントであったのか。社内の業務改善などプロセス管理担当を務め、今回の製品選定に携った六川奈穂子氏は次のように語る。

「会計処理に必要なデータは、基幹システムからCSVファイルで抽出できるので、CSVデータを使って基幹システムと連携できる会計システムが必要でした。また普段の会計業務では定期的に本社に英語のレポートを提出することが必要なので、日本語と英語を含む多言語に対応しているかどうかが重要でした」

上記を満たす製品を探した結果、ピーロート・ジャパンが最終的に選定したのはGLASIAOUSだ。そのポイントとしては、機能が充実していること、また会計業務の効率化が期待できること、カスタマイズにより損益計算書(PL)や貸借対照表(BS)を独自フォーマットで柔軟に出力できることなどを評価して採用を決定したという。

六川氏は、「中でも気に入ったのは、Excelで作ったフォームから、コピー＆ペーストで伝票が作れる機能でした。弊社の複雑な組織体系に対応できることも評価しています」と話す。

CASE STUDY

／
商社

ピーロート・ジャパン株式会社



ピーロート・ジャパン株式会社
経理課 マネージャー
中田学氏



ピーロート・ジャパン株式会社
経理課
山内智美氏



ピーロート・ジャパン株式会社
プロセス管理担当
六川奈穂子氏

2019年6月にGLASIAOUSの採用を決めたピーロート・ジャパンでは約3カ月でシステムを構築した。その後、9月より旧会計システムとの並行稼働を開始し、問題がないことを確認できたため10月より本番稼働をスタートした。

経理業務をトータルに省人・省力化 クラウドを活かして在宅勤務の対応もスムーズに

GLASIAOUSの導入によってレガシーな会計システムを刷新することで、さまざまな効果をもたらしている。

特にPL、BSは、ドイツ本社で決められているフォーマットがあり、手作業でレポートを作成していたが、GLASIAOUSはボタン1つでレポートを出力できる。また画面から条件を設定して、自由にデータを抽出できる機能も非常に有効だったという。

「どの仕入先から、いつ、いくらで購入したのか、どれくらいの外貨を使ったのかなど、知りたい情報を多言語、多通貨で容易に把握できることを取締役が高く評価しています」(六川氏)

また多通貨対応も業務に役立っている。以前は、期末の残高を確認する場合、金額を円で入力し、Excelでドル、ユーロ換算の補助表を作成して確認していた。GLASIAOUSでは円、ドル、ユーロの金額をそのまま入力できるので、補助表を作成する手間もなくなり、二重入力によるミスもなくなった。

以前は紙で出力して回覧し、取締役の承認をもらっていた各種業務フローについても、GLASIAOUSでは画面上で承認できるのでフローの短期化を実現できる。

経理課の現場の業務では実際にどれほどの効果を実感しているか。経理課の山内智美氏は、「以前は、4桁の勘定科目のコードを覚えなければ仕事になりませんでした。GLASIAOUSでその不便さは解消されました。また仕訳を入力しても紙に出力するまでチェックできませんでしたが、GLASIAOUSは画面上でチェックできるので便利です。Excelに入力した仕訳データをコピー＆ペーストするだけで入力できる機能の効果は大きく、例えばこれまで30分程度かかっていた入力作業が5分程度で終わります」と話す。

一方で中田氏も「以前は、経理スタッフ5名で会計業務を行っていましたが、GLASIAOUSの導入による効率化で、現在は4名で処理できるようになっています」と説明する。そして最後に同氏はこう語る。

「GLASIAOUSはクラウドサービス(SaaS)なので、端末に依存することなくWebブラウザからいつでもどこでも仕事ができることを非常に高く評価しています。コロナ禍では在宅勤務や交代制での出勤を実施していますが、以前の会計システムのままだったらと考えるとゾッとします。GLASIAOUSは現在の会計業務にぴったりの仕組みであり、まだ使いきれていない機能も含めて有効活用することで、今後も引き続き効率化を進めたいと思っています」



海外4拠点の会計情報を 迅速・詳細に把握 月次資料の作成が半月から3日に 連結決算の工数を半分に削減

光洋マテリア株式会社

非鉄金属素材や樹脂素材の流通から加工までを手がける光洋マテリア株式会社（以下、光洋マテリア）は、タイ、インドネシア、上海、香港の海外4拠点の経営管理強化を目的に、ビジネスエンジニアリング（B-EN-G）のクラウド型会計&ERPサービス「GLASIAOUS」を導入。Excelによる会計処理、販売管理から脱却し、全拠点の最新情報を日本本社から把握できる仕組みを構築したことで、情報共有や報告の迅速化、連結決算業務の省力化を実現している。

光洋マテリア株式会社

光洋マテリア株式会社

<http://www.koyom.co.jp/>

設立 1955年8月25日

事業内容 伸銅品、軽金属品、ステンレス、並びに加工製品の取扱い、非鉄金属材料を主体とした加工製品の取扱い、非鉄金属地金並びにスクラップ類の取扱いを事業として展開。

1955年8月、光洋金属株式会社として設立。非鉄金属現物問屋として事業を展開。その後自動車関連を中心に事業を拡大。1996年1月に社名を現在の光洋マテリア株式会社に変更。マテリアルを通じて社会のニーズをコネクストし、モノづくりに貢献する加工流通企業というビジョンに基づき加工機能を強化、加工製品の取り扱いを増加させている。国内8拠点、海外4拠点（2021年12月現在）で事業を展開。自動車関連業界への販売ウエイトは約78%を占める。



キーワード 海外拠点からの報告の迅速化／連結決算の早期化／Excelベースの販売管理業務の脱却／正確な経営判断の支援／自計化の促進

導入製品 GLASIAOUS

POINT コスト面はもちろん、多言語対応、直感的に使える操作性などを総合的に判断してGLASIAOUSの採用を決定。上海拠点では業務委託先の現地の会計事務所に導入してもらうことで、会計業務の自計化と効率的な分業に役立っている。

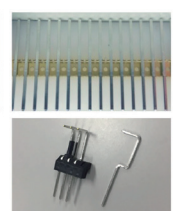
導入前の課題

- 海外拠点では、現地の会計事務所に記帳代行を任せていたため、現地責任者は基本的な財務諸表の把握に留まっており、詳細情報の確認に時間を要していた。
- 月次の役員会議にて海外拠点は1～2カ月前の決算情報しか報告できなかったため、経営判断に必要な情報をタイムリーに把握できなかった。
- 連結決算のためのExcelファイルが拠点ごとに様式が異なるため、詳細情報の把握に工数を要した。



導入後の効果

- GLASIAOUSによって自計化が加速。現地の責任者が会計情報をより深く理解し、数字の変化も正しく捉えて報告が可能。
- 売上、粗利の速報値などを瞬時に把握、半月程度かかっていた月次資料も3日程度で作成可能。
- 各海外拠点の会計情報をGLASIAOUSからドリルダウンして詳細に確認できるため、連結決算の工数が半分に短縮。



会議への報告の質とスピードが向上 今後の新規拠点立ち上げ時にもGLASIAOUSを検討

日本側から海外拠点を 管理、可視化できる仕組みが必要

自動車産業の成長とともに事業を拡大してきた光洋マテリアル。複数のサプライヤーとともに、自動車部品や電子部品、建設設備機器、省エネ関連部品などの幅広い分野で顧客のニーズにあわせた製品を提供している。また、これまで培ってきた車載、電装部品などのノウハウを生かして、加工ビジネス分野を拡充するとともに、海外拠点における事業のさらなる拡大を進めようとしている。

同社では、顧客の海外ビジネスのニーズに応えるために、2010年にタイ、2011年に香港、2012年にインドネシア、2013年に上海と1年ごとに拠点を立ち上げて事業を拡大してきた。しかし、海外事業を推進するにあたり経営管理の観点からいくつかの課題を抱えていたという。その1つが会計情報の把握である。同社 財務経理部 部長の川村尚広氏は「海外拠点の営業・財務状況を正確に把握するまでに、月次の締めから1カ月～1カ月半かかっており、タイムラグが生じていたのが課題でした。また海外拠点の事業規模が拡大し、重要性が高くなってきたために連結で数字を把握したいという経営層からのニーズも高まっていました」と話す。

もう1つの大きな課題はExcelベースの非効率な業務だ。上海拠点の現地法人社長でもあり執行役員を務める稲垣達也氏は、次のように語る。

「財務会計や販売管理の仕組みは拠点ごとにやり方がばらばらで統一性がありませんでした。例えば上海拠点では、記帳や発注書・インボイス発行などもExcelベースで行っていたために非効率でした。もしインボイスに誤りがあれば税関で止まってしまうため、システムによる正確な管理は不可欠です。加えて、日本本社側からでも随時可視化できる仕組みを導入したいと考えていました」

4拠点の役割に応じて 会計機能とERP（販売購買在庫）機能を導入

上記の課題を解決するために光洋マテリアルが導入を決定したのがGLASIAOUSだ。まずシステム更改の対象として最初に着手したのがタイ拠点の会計システムである。「タイ拠点では現地の会計システムを使っていたので、日本人は入力された内容の確認に時間を要していました。日本人スタッフ、ローカルスタッフ双方が使える多言語の会計ソフトを検討した結果、選定したのがGLASIAOUSでした」と川村氏は話している。

導入は2020年夏頃に行い、そこで有効性を確認した同社では、続けて上海と香港への横展開を実施した。加工業務を行い、生産拠点の役割を持つタイとインドネシアでは既存システムとのバランスから、生産管理機能以外の業務管理や会計管理を担うシステムとして導入し、商社としての役割をもつ香港と上海はERP（販売購買在庫）機能も導入している。

川村氏は、「機能やコスト面はもちろん、中国語、タイ語、インドネシア語などの多言語対応、直感的に使える操作性な

CASE STUDY

非鉄金属加工・商社

光洋マテリアル株式会社



光洋マテリアル株式会社
執行役員兼海外事業戦略室長
稲垣 達也 氏



光洋マテリアル株式会社
財務経理部
部長
川村 尚広 氏



光洋マテリアル株式会社
財務経理部
海外事業戦略室
新井 壮一 氏

どを総合的に判断して採用を決めました」と話す。

B-EN-Gのサポートについて川村氏は、「我々としては現地と話をしながら導入したいという思いがあったのですが、コロナ禍でまったく動けなくなってしまいました。その中でB-EN-Gの担当者には、リモート環境を上手く使って現地スタッフのニーズを聞きながらきめ細かく対応してもらえたので、ほぼスケジュールどおりに導入できました」と話す。

経営層への報告の迅速化や 連結決算業務の早期化・省力化に貢献

GLASIAOUS導入による最大の効果は、各拠点の会計情報の共有が迅速化されたことだ。川村氏は「四半期ごとの経営層への報告のスピードが向上しました。GLASIAOUSから詳細な情報を深掘りできるので、各拠点の責任者は、会計事務所からの財務諸表ベースに報告していたときよりも状況をきちんと把握して、数字の変化も捉えられるようになっていきます」と話す。

上海拠点では、記帳代行を依頼していた会計事務所にもGLASIAOUSを利用してもらっており、現地と会計事務所、日本本社が同じ画面でやり取りすることで会計業務の効率化につながっている。上海拠点は、これまで記帳を含む会計業務のほとんどをアウトソースしていたが、GLASIAOUSを導入したことで自計化が進み、今では業務の約8割は同拠点内で完結しているという。

また販売管理に関する効果を稲垣氏は次のように話す。「売上、粗利の速報値や期中、月中の進捗状況、予算に対する実績などは日本拠点からでも瞬時に把握できます。月次の役員会議のために、これまで半月程度かかっていた資料の準備も3日程度でできるようになりました。履歴をさかのぼって確認できること、帳票を簡単に出力できることなどもシステム化によるメリットです」

さらに、連結決算業務を担当する財務経理部 海外事業戦略室の新井壮一氏もそのメリットをこう語る。「連結決算を行うために、以前は各海外拠点からExcelファイルをもって作業していました。各科目の数字を拾うだけならそれで問題ありませんが、その詳細が知りたいときGLASIAOUSが欠かせません。疑問点があっても今では個別に各拠点の担当者に問い合わせることなく、GLASIAOUSでドリルダウンして確認できるようになりました。連結決算にかかる工数は以前に比べて半分程度に削減されました」

現在、各拠点の予算管理はExcelファイルをベースに行っているが、今後はGLASIAOUSの予算機能を活用して予算管理の効率化も図っていく予定だ。また、現在使用している連結決算システムとのデータ連携も検討しており、それによってさらなる工数の削減が期待できる。稲垣氏は、「今後、新たな海外拠点を立ち上げるときにも始めからGLASIAOUSを採用したいと思っています」と話しており、同社の海外ビジネス強化に向けてGLASIAOUSはますます欠かせない存在となってくるであろう。



ビジネスエンジニアリング株式会社

オンプレミスの会計システムをクラウド型へと刷新し 高止まりする運用費の負担を解消

キーワード▶ 会計システムのクラウド移行／システム運用コスト削減／
経理部門のリモートワーク対応

導入製品▶ GLASIAOUS

POINT▶ 英語（多言語）対応したグローバルシステムであり、外貨管理機能を備えるなど、太知ホールディングスが新たな会計システムに求めた要件をすべて満たしている点や、メキシコを含む新興国での豊富な実績を持つことが決め手となり選定。

株式会社太知ホールディングス

中東・アフリカ・中南米・アジアの新興市場を中心に、広く海外に事業を展開する専門商社の株式会社太知ホールディングス（以下、太知ホールディングス）では、さらなる事業拡大を見据え、将来的に海外法人の財務会計情報を横断的に管理できるシステムの導入を検討していた。そうした中、日本本社の会計システムをビジネスエンジニアリングの（B-EN-G）のクラウド型会計&ERPサービス「GLASIAOUS」へと刷新。クラウドサービスならではの柔軟な業務環境と大幅なコスト削減を実現した。



株式会社太知ホールディングス

<https://www.taichi-holdings.com>

創 業 1973年11月

資 本 金 9,900万円

従業員数 146名（2022年3月末・連結）

事業内容 ルームエアコン・ビル用マルチエアコン・大型チラーユニットなどを取り扱う空調事業や、医療事業、車輛事業など多彩な事業を世界各国で展開

中東・アフリカ政府向け取引の専門商社として1973年に創業。以来事業の拡大を続け、現在では中東・アフリカのみならず、アジア、中南米へと世界中にビジネスを広げている。新興市場を中心とした海外に顧客・拠点を有し、日本の付加価値の高い商品を中心に、医療・空調、建機車両、環境インフラ、印刷など多彩な商材の販売を行っている。



導入前の課題

- 既存の会計システムは数年ごとのバージョンアップ対応に多額の費用が発生していた
- オンプレミスの会計システムであったことから、サーバーの保守や更改の手間が生じていた
- 従来の会計システムは基本的に社内からしかアクセスできず、柔軟な働き方の妨げになっていた



導入後の効果

- 会計システムをクラウド化したことで、システム運用コストを5分の1程度に削減
- Excelと親和性が高く、伝票データ入力を効率的に行える機能を活用し、経理業務を効率化
- 場所を問わずにアクセスできるクラウドのメリットを活かし、リモートワークも柔軟に対応可能に



使い勝手の良いクラウド会計システムを選定 拡大する海外法人の管理も視野に

新興国を中心として世界中に拠点を拡大

太知ホールディングスは、ルームエアコンやビル用マルチエアコン、大型チラーユニット(冷却水循環装置)などを取り扱う空調事業を主力とし、日系の医療機器メーカーの新興国進出(新規市場開拓)を支援する医療事業、自動車部品供給から建設機械輸出まで幅広く対応する車輛事業を展開する専門商社だ。中近東・アフリカ諸国を中心に、中南米諸国やアジアの新興国でもビジネスを展開しているのが同社の特徴である。

同社 執行役員 管理部長の清水勉氏は、「技術者がおらず、英語も通じない地域の現場にもあえて入り込み、信頼性の高い日本製品の供給からメンテナンス、サポートまで一貫して行っています。さまざまなカントリーリスクがあるのは事実ですが、日本から赴いた駐在員や現地採用の社員が、数年ごとの期間で交代するのではなく20~30年といった長期間にわたって現地に根付いてしっかり対応する体制を築き、ビジネスを発展させてきました」と話す。

こうして現在、同社の海外拠点は中国、ベトナム、シンガポール、韓国、アラブ首長国連邦、サウジアラビア、エジプト、ケニア、リビア、ナイジェリア、アメリカ、パナマ、コロンビアなど、非常に多彩な地域に点在している。

会計システムにもコスト削減が求められた

国外に複数拠点を抱える同社では、海外法人を横断して情報を統合することを見据えた会計システムを実現したいと考えていた。もっとも、日本本社ではすでに多様な外貨建取引に対応した連結決算機能を有する会計パッケージを導入していたものの、運用コストが悩みの種となっていた。

「3~5年ごとに行われるソフトウェアのバージョンアップに対応するのに数百万円の費用がかかるのです。加えてオンプレミスで運用するサーバーの費用、ハードウェア更改に対応する費用、IT業者に支払う保守契約の費用などを合算して月間に均すと約25万円のコストがかかっていました」と清水氏は明かす。

コロナ禍でビジネス環境が世界的にも厳しさを増している中、同社でもさらなる事業拡大や企業価値の向上を目指していくとともに、経営資源配分の見直しも検討。その一環として会計システムに費やしていたコストを削減する機運も高まっていた。

同社ではシステム更改に向けた情報収集を開始し、「商社」「グローバルシステム」「外貨管理」「英語(多言語)対応」といったキーワードを軸に、新たな会計システムの候補となるいくつかの製品を絞り込んでいった。その中から同社が最終的に選んだのが、「GLASIAOUS」である。

「弊社が新システムに求めた要件をトータルに満たしていたのがGLASIAOUSでした。メキシコをはじめとする海外での豊富な導入実績があることも大きな要因であり、まさに弊社に最適な会計システムだと判断しました」と清水氏は選定の理由を示す。

月間平均で約25万円かかっていた 運用コストを5万円程度に削減

2021年9月にGLASIAOUSの導入を正式決定した同社は、同年11月に旧会計システムからの移行に着手し、実質2~3カ月の短期間で作業を完了。パイロット運用を経たのち、2022年4月の新年度より本番運用を開始した。

「もともと旧システムでは、基本的な財務会計機能のみを使用していたので、比較的スムーズに移行作業は完了しました。勘定科目、拠点、部門、管理対象の外貨、さらに旧システムで管理していた過去データの扱い方のルールなど、基本事項さえしっかり押さえてGLASIAOUSに定義さえすれば移行は可能で、技術的な観点からの問題はまったく起こりませんでした」と清水氏は振り返る。

それから一年半近くが過ぎた2023年9月現在、同社の会計業務ではいくつかの変化が見られている。1つが、今回の会計システム刷新の目的でもあったコスト削減である。「ソフトウェアのアップデート費用をはじめ、サーバー費用やハードウェア更改費用、保守費用などすべてが不要となり、月間平均で約25万円かかっていたコストは5分の1である5万円程度に削減されました」と清水氏は強調する。

その他の効果が現場業務の効率化だ。同社 経理課 課長の秋山泰彦氏は、「Excelとの親和性の高さを評価しています。会計伝票はExcelシートで作成してもらっているのですが、その内容をコピー&ペーストでGLASIAOUSに登録できる点が便利だと感じています。逆にGLASIAOUSで集計したデータをExcelに出力し、管理会計用の資料や報告書も簡単に作成できます」と語る。

そしてGLASIAOUSはクラウドサービスであるがゆえに、場所を問わないシステム利用が可能となった。「おかげで在宅勤務を望む社員を中心に、経理部門でも柔軟なりモトワーク対応が進んでいます」と清水氏は語る。

グローバル全体の会計システム統一も視野に

同社の各海外法人については、現状それぞれの地域に適した会計システムを導入している。グローバル共通の経理マニュアルのもとで勘定科目や締め処理の手続きなどが統一されており、連結決算からキャッシュフローの管理まで、月次ベースで対応できる体制が整っているという。

とはいえ現状は決して最終形ではなく、将来的にはすべての海外法人の会計システムを統一したいという思いも抱いている。

「財務会計から管理会計まで、現在の体制でも実務上の問題はありませんが、各海外法人の会計システムはブラックボックスで、本社とのやり取りも現地責任者に依存しているのが実態です。本社からのより厳重なガバナンスを確立するためには、グローバル全体で会計システムが統一されているのが望ましい姿です」と清水氏は語る。日本本社でGLASIAOUSが上げてきた成果を踏まえつつ、同社はその将来を見据えている。



GLASIAOUSのモニタリング機能で 海外拠点の会計情報を可視化 現地とのデータ連携の強化で 作業工数やコストを削減

株式会社エイジス

“日本を代表する棚卸のエイジスから、アジアを代表するリテールサポートのエイジスグループ”を目指すというビジョンに基づき、事業の拡大を一層加速させている株式会社エイジス（以下、エイジス）。海外拠点の会計情報のモニタリング強化を目的に、ビジネスエンジニアリング（B-EN-G）のクラウド型国際会計&ERPサービス「GLASIAOUS」を導入。海外拠点と本社の会計担当者とのコミュニケーションが大きく改善された。



株式会社エイジス

<https://www.ajis.jp/>

設立 1978年5月23日

事業内容 チェーンストアや流通小売業向けに、棚卸や改装、補充、調査、人材派遣など、さまざまなサービスをアウトソーシングで提供する事業を展開。

「『日本を代表する棚卸のエイジス』から『アジアを代表するリテールサポートのエイジスグループ』へ」というビジョンを掲げ、3つの主要セグメントである国内棚卸サービス、海外棚卸サービス、リテールサポートサービスを中心に事業を展開。日本をはじめ、アジア各国の小売業を中心とした約2,500社に、棚卸サービス、マーチャндаイジングサービス、リサーチサービス、プロモーションサービス、コンサルティングサービス、人材派遣サービスを提供している。

キーワード▶ 会計データモニタリングの強化／出張コスト削減／コミュニケーションの強化／処理時間や工数の削減／属人性の排除／システム導入コストの低減

導入製品▶ GLASIAOUS

POINT▶ 翻訳機能が充実していたこと、導入コストが抑えられること、投資効率がよいことなどを評価してGLASIAOUSの採用を決定。最初の韓国拠点の導入に必要な資料の提供やマスタの設定、仕訳のインポートツールの開発などはB-EN-Gがサポート。2拠点目以降は、韓国拠点への導入で培った設定の経験やノウハウを生かし、エイジスで導入から設定まですべて行った。

導入前の課題

- コロナ禍による海外渡航制限で、以前より懸案事項であった海外子会社の会計情報のモニタリング強化が急務に
- 現地に行かなければ海外拠点の会計データを詳細に把握できず、また言語の壁があることなどから管理が不十分
- 中国語や韓国語など、現地の言葉で書かれた資料ではコミュニケーションが困難



導入後の効果

- 海外拠点へ赴かずに本社から海外拠点の会計情報を手軽に確認。出張コストも削減
- 決算処理にあたって、必要な科目の組み替えをGLASIAOUSで事前に設定しておくことで、作業工数削減を実現
- 会計情報をGLASIAOUSに集約したことで、人に依存せず同じ情報やデータをやり取りできるようになるなど、属人性排除にも貢献

既存の会計ソフトはそのままに、GLASIAOUSで 現地の会計情報の可視化や円滑なやり取りが可能に

海外拠点の会計データの モニタリング強化が必要

1978年、日本で初めて棚卸代行サービスを提供するオール・ジャパン・インベントリ・サービス株式会社として創業し、1996年に現在の商号に変更したエイジス。現在、本社を含めた国内6社を中心に直営42拠点、フランチャイズ31拠点を展開。国内棚卸サービスではNo.1のシェアを実現している。財務経理部 部長の西本敬氏は、「チェーンストア業界においては、なくてはならない存在になっています」と語る。

海外拠点では、東アジア、ASEAN（東南アジア諸国連合）地域に8社を展開し、棚卸サービスを提供。海外拠点の会計処理は、本社の経理担当者が四半期ごとに出張し、スタンドアロンで存在している現地の会計ソフトのデータを確認したり、現地の会計事務所の担当税理士にヒアリングしたりしながら行っていた。しかし、現地に行かなければ会計データが確認できないこと、コロナ禍で現地への訪問が困難になったこと、遠隔で説明を受けるには言語の壁があることという3つの課題を抱えていた。

エイジス 財務経理部 財務経理マネージャーの小倉祐輔氏は、「現地に行かずとも、海外拠点の会計データを常にモニタリングできる仕組みが必要だと感じていました。そこで2020年7月から、海外拠点の情報を含めて管理できる会計ソフトを探していたところ、ベトナム拠点の会計処理をサポートしてくれている会計事務所からGLASIAOUSを紹介されました。いくつかの会計ソフトと比較検討した結果、GLASIAOUSの採用を決定しました」と当時を振り返る。

メインの会計ソフトとして利用できる 将来性も採用の決め手

GLASIAOUSの選定の決め手となったのは、翻訳機能が充実していたことだ。また拠点あたりの導入コストが抑えられることも高く評価された。エイジスが実現しようとしたのは、海外拠点の既存の会計ソフトを継続して使いつつそのデータをGLASIAOUSに連携・収集してモニタリングできるようにする仕組みだ。GLASIAOUSを、モニタリング機能だけではなく、将来はメインの会計ソフトとして使用することも考えれば、投資を有効に生かせることも採用を決めた理由だったという。

GLASIAOUSの導入は、2020年10月に韓国の拠点からスタート。導入に必要な資料の提供やマスタの設定、仕訳のインポートツールの開発などはB-EN-Gがサポートした。

「特に韓国子会社のハンゲルで書かれた会計データの翻訳に手間がかかっていたので、GLASIAOUSの自動翻訳機能は非常に魅力的でした。また、帳票設定が比較的簡単にできること、ログイン時に表示されるダッシュボードで課題や進捗をすぐ確認できること、データやファイルをGLASIAOUS上で共有し、システムで適切に管理できることなども評価しています」（小倉氏）

韓国拠点への導入で培った設定の経験やノウハウを生かし、

CASE STUDY

流通・小売

株式会社エイジス



株式会社エイジス
財務経理部 部長
西本 敬氏



株式会社エイジス
財務経理部 財務経理マネージャー
小倉 祐輔氏

12月にベトナムの拠点、2021年1月～3月に残りの海外拠点への導入を実施。2拠定点目以降は、すべてエイジスのメンバーで設定を行い、仕訳のインポートツールの開発だけをB-EN-Gがサポートした。

「現地がどのような会計ソフトを使っているのか、どのような科目体系なのかなどを把握するために必要な情報の取得に少し苦労はしましたが、経理部門で課題感を共有していた上、(本社の) 海外事業本部もGLASIAOUSの導入に前向きだったのでスムーズな導入を実現できました」（小倉氏）

海外拠点の会計担当者との コミュニケーションが容易に

GLASIAOUSの導入によって、海外拠点の会計担当者とのコミュニケーションが容易になった。例えば、仕訳伝票がみられるようになったことで、3月末の本決算のときに、現地拠点の科目体系が、本部が求める科目体系と違っていても、現地の担当者に確認する必要がなく、GLASIAOUSの中にあるデータをすぐに確認して、正しい形に直すことができる。これにより、会計データ確認のための海外拠点への出張が不要になり出張コストを削減できた。

「月次報告用の科目から決算用科目への組み換えはGLASIAOUSの中で事前に設定できるので、四半期データを送る際には、海外拠点側では帳票を出力するだけで済みます。そのため、作業時間や工数削減は期待どおりの効果が出ています。現地の担当者が変わっても、一から説明することなく、誰が処理しても同じ情報をやり取りすることができるなど属人性も排除できました」（小倉氏）

エイジスでは、月次単位で決算作業における帳票のチェックができる運用体制を実現できたので、今後は四半期、半期でもチェックができる体制を確立しようとしている。ベトナムの拠点をサポートしている会計事務所でもGLASIAOUSを導入する計画があり、導入されれば連携がより一層容易になることもメリットの1つである。

今後、海外拠点が増えたときには、現地の会計ソフトではなく、まずはGLASIAOUS導入を検討するという。帳票に関しては、経理部門と海外事業本部それぞれの要望に添えていく計画だ。現在は、財務諸表を使って、予算と実績、予算対比、推移などを分析しているが、GLASIAOUSの中に予算を複数持つことができるので、当初の予算が進行していく中で、見込み値が変化したら、見込み値を予算として入力し、実績、予算、見込み値の対比ができるようにすることを検討している。

西本氏は、「マスタの設定や仕訳のインポートツールの開発など、B-EN-Gの手厚いサポートは高く評価しています。また、(B-EN-Gが開発した) Business b-ridgeというシステムを使ってサポートの質問をしましたが、メールサーバーのような役割を生かしたサポートの仕組みは、メッセージを送ったらシステム上で消えてしまうことなく後から履歴を確認できるので、便利でユニークだと感じています。こうしたツールも含め利便性の高いサポートを今後も期待しています」と話している。



VALUENEX

VALUENEX株式会社

東証グロース4422

大量の文書情報を俯瞰解析・可視化するビッグデータ解析ツールおよびコンサルティングサービスを提供しているVALUENEX株式会社は、ビジネスのグローバル展開を目指している。ただ、そうした中で足かせになると考えられたのが、オンプレミスで運用してきた会計システムである。そこで同社の米国法人(VALUENEX, Inc.)はビジネスエンジニアリング(B-EN-G)のクラウド型国際会計&ERPサービス「GLASIAOUS」の導入に踏み切った。こうして刷新された基盤のもと、グローバルな経理財務体制の構築を進めている。

VALUENEX
intellectual innovator

VALUENEX株式会社

<https://www.valuenex.com/>

設立 2006年

資本金 5億3027万円

従業員数 連結26名、単体24名(2021年7月31日時点)

事業内容 独自のアルゴリズムにより、大量のデータを一枚の俯瞰図として高精度に可視化・解析するツールおよびコンサルティングサービスを提供。

VALUENEXのビッグデータ解析ソリューションは、世界中の多種多彩かつ大量な文書情報を俯瞰解析+可視化することで、さまざまなビジネス戦略へつながる“次の一手”やそのエビデンスをサポートする。独自開発したアルゴリズムを基盤とするビッグデータ解析ツール「VALUENEX Radar」と、数多くの経営課題に応えてきた経験豊富なコンサルティングサービスも含めたトータルソリューションで、事業戦略や研究開発等の幅広い分野の産業活性化に貢献している。

導入支援不要で会計システムをスムーズにリプレース コストを抑えて グローバル体制構築へ

キーワード グローバルな経理財務業務/多言語・多通貨対応/初期導入コスト削減/内部統制・監査対応

導入製品 GLASIAOUS

POINT 「多言語・多通貨に対応するとともに、監査法人による内部統制監査やISMSに耐えうる製品であること」という条件のもと、30種近い会計ソフトの中から最終的にGLASIAOUSの導入を決定。また導入支援サービスを利用せず「QuickStart※」方式を選び、自力での導入および旧システムからのデータ移行を行った。

※初期設定をユーザー様自身で行っていただけるドキュメントとツール、および多数の動画を含むトレーニングマニュアルをパッケージ化したサービス

導入前の課題

- 既存の会計システムの保守サポートが終了し、リプレースが急務
- 初期導入コストを抑えたシステムリプレースが求められた
- グローバルで運用できる多言語・多通貨に対応した会計システムが必要



導入後の効果

- マニュアルを用い、自社自身で導入できる方式を採用して初期導入コストを削減
- 多言語・多通貨の会計システムで将来的なグローバル運用にも耐えられる基盤を構築
- 証憑添付機能により承認プロセスの工数削減を実現

内部統制監査への対応機能を備えた 多言語・多通貨対応の会計システムを選定

リプレースが急がれた オンプレミスの会計システム

ビッグデータ解析に関する高度な知見と技術力をベースに、知的財産を分析するIPランドスケープや経営戦略立案などのコンサルティング、さらにテキストデータの俯瞰解析ツールを提供するVALUNEX。将来的なグローバル規模でのビジネス展開を視野に入れ、日本のほかに情報・通信産業のメッカであるシリコンバレーの中心地にもオフィスを構えている。

この米国子会社 (VALUNEX, Inc.) で直面していたのが、財務経理業務に関する問題だ。日本本社と同じ会計システムを使用していたのだが、保守サポートの終了が近づきリプレースが急がれたのである。

VALUNEXの Accounting & Finance Dept. General Manager 山口友聡氏は、「これを機に、グローバルなビジネス体制構築の一步とすべく日本側とは異なる多言語・多通貨に対応した会計システムを導入することにしました」と語る。

こうして新たな会計システムの選定に際して挙げたのが、「多言語・多通貨に対応するとともに、監査法人による内部統制監査やISMS (情報セキュリティマネジメントシステム)、に対応できる製品であること」という条件だ。そして30種近い会計システムのパッケージ製品について調査した中から絞り込み、最終的に2020年12月に導入を決めたのが、B-EN-Gの「GLASIAOUS」である。

さらなる初期コスト削減のため 「QuickStart」方式による導入を選択

VALUNEXはGLASIAOUSについて前述した条件を満たすほか、申請・承認機能や証憑添付、銀行との取引データのCSV取り込み、財務諸表 (集計値) から仕訳 (明細値) へのドリルダウン機能などを備えていることにも注目。加えてAICPA (米国公認会計士協会) の定めた基準に従って独立した監査法人から発行される「SOC (受託業務に係る内部統制の保証) 報告書」を取得している点も高く評価している。

「内部統制監査に対応する機能は重要な要件でした。こうした機能をしっかり網羅するとともに、価格面でも他社製品に勝っていたことがGLASIAOUS導入の決め手となりました」と山口氏は強調する。

なおVALUNEXではGLASIAOUSを導入するにあたり、B-EN-Gの初期導入サービスを利用する代わりに、導入マニュアルなどを参照してエンドユーザー自身で導入を行う「QuickStart」方式を選択している。

「全社的にコスト削減の取り組みを強化しているタイミングだったので、初期コストをより抑えたいという思いがありました。それに加え、私自身前職で国内・海外の会計システムリプレースに携わった経験があったので、自分自身でもある程度初期導入は対応できるだろうと考えました」と山口氏は語る。

CASE STUDY

情報・通信業

VALUNEX株式会社



VALUNEX
General Manager
Accounting & Finance Dept.
山口 友聡 氏



VALUNEX
Senior Staff
Accounting & Finance Dept.
梅田 道子 氏

データ移行に苦慮するも 自力での導入に成功

QuickStart方式を採用することにしたVALUNEXでは、マニュアルに基づきGLASIAOUSの導入・設定を進めていくことになった。

「特に重要な初期設定については、あらかじめ用意されたExcelフォームに入力して転送すると自動的にGLASIAOUSに反映される仕組みとなっており、比較的順調に作業は進みました」と山口氏は語る。

もっとも苦労がなかったわけではない。VALUNEXは米国で事業を開始してから約8年分の過年度仕訳データをすべてGLASIAOUSに取り込もうとしたところ、項目数が膨大であったこともありエラーが度々発生したという。もちろん、QuickStart方式でも、導入作業中はメールベースでB-EN-Gのサポートは継続的に受けることができる。それを利用しながら山口氏は導入を進めていった

「通常の経理業務を行っている隙間時間だけではなかなか作業が進まず、すべてのデータの移行を終えるまでにはそれなりの期間を費やしてしまいましたが、発生したエラーについては、特段対応できないものではありませんでした。B-EN-Gからも修正方法や回避策などの確かな回答をいただき、おかげでこのハードルを乗り越えることができました」と山口氏は振り返る。

証憑添付機能を効果的に活用し 承認プロセスの工数を削減

こうして導入とすべてのデータの移行作業を終えたGLASIAOUSは、2カ月間の並行稼働期間を経て2021年8月より本格的な稼働を開始した。

VALUNEXの Accounting & Finance Dept. 梅田道子氏は、「それまで使っていた会計システムとGUIや操作感が異なる部分もあり、最初のうちは戸惑いもありましたが、慣れてしまえば問題ありません。BSやPL、月次PL推移表といった帳票も快適なレスポンスで確認できています」と語る。

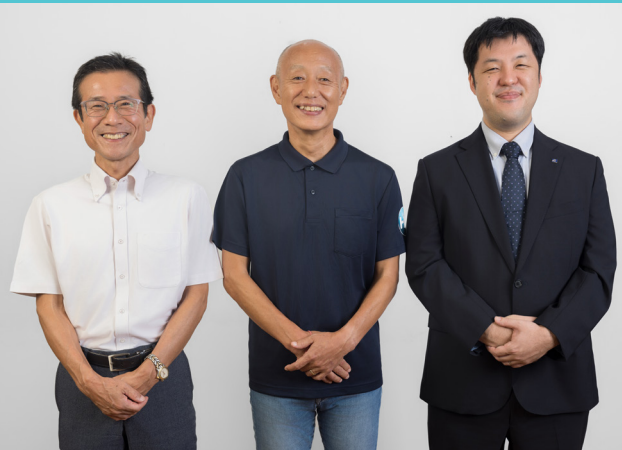
さらに高い評価を得ているのが、以前の会計システムにはなかった証憑添付機能である。「従来の会計システムでは、別フォルダで管理されている証憑を開いて伝票番号などを目視で確認して突合しなければなりませんでした。GLASIAOUSではそうした煩雑な手間がなくなりました。あわせて明細データへのドリルダウン機能もしっかり活用されており、承認プロセスの工数削減を実現しています」と山口氏は語る。

VALUNEXでは、将来的にグローバル体制が強化された際の基盤として、GLASIAOUSの活用を期待を示している。

「当社は、現時点で日本と米国の2拠点体制ですが、多国籍な従業員や海外法人との提携でグローバル化が進んでおります。さらにこの流れが加速した際には、日本語、英語、中国語 (繁 / 簡)、タイ、ベトナム、インドネシアの7つの言語および通貨に対応したGLASIAOUSは、よりその真価を発揮できるでしょう」と山口氏は語っている。



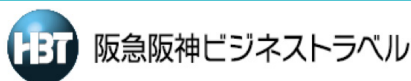
ビジネスエンジニアリング株式会社



日系企業進出が拡大するインドに 現地法人を開設 拡張性・汎用性の高いシステムで 会計事務所との業務分担も柔軟に

株式会社 阪急阪神ビジネスラベル

阪急交通社グループの業務渡航専門会社である株式会社阪急阪神ビジネスラベル(以下、阪急阪神ビジネスラベル)は、日系企業の進出が相次ぐインドにおいて、顧客企業からサービス強化の要望を受けて現地法人を設立した。それに伴い必須となったのが、主に請求業務を担う会計システムである。会計業務全般を委託している日本経営ウィル税理士法人の支援のもと、ビジネスエンジニアリング(B-EN-G)の「GLASIAOUS」を導入。インド法人の設立と同時に運用を開始し、2023年3月期に初めての決算もスムーズに行うなどの成果を上げながら、活用範囲を拡大していこうとしている。



株式会社阪急阪神ビジネスラベル

<https://www.hhbt.co.jp/>

創業 1948年11月1日
資本金 6,000万円
従業員数 263名
事業内容 海外及び国内出張に関するコンサルティング、海外及び国内航空券・乗車券類の販売、インセンティブツアーなど企業内グループ旅行の企画手配など

BTM (Business Travel Management) を中心とした事業を展開する。航空券の手配から旅費管理まで独自システム「HBTNavi」で一貫対応し、出張費用の削減や出張手配の利便性向上による業務効率化、リスクマネジメント(危機管理)、ガバナンスの強化などを包括的にサポートする。またMICE (Meeting Incentive Convention Exhibition/Event) サービスでは、専門知識を持った現地ガイドや通訳の手配をはじめ、要望に応じた最適な法人団体旅行手配を提案する。

キーワード ▶ インドの税制に対応した会計システム導入/請求業務の現地化/日本本社、現地法人、税理士事務所の3社の連携

導入製品 ▶ GLASIAOUS

POINT ▶ インド固有の複雑な税制に対応した請求業務での利用が可能である点に注目。加えて日本語を含む多言語に対応している点や、クラウド型であることで日本本社とインド法人の国境をまたいだ拠点間でも容易に連携できることが決め手となった。

導入前の課題

- インドに現地法人を設立するにあたり、請求業務を外部に委託せず自社で行いたい
- 顧客から寄せられる、インド現地で費用を精算したいというニーズに応えられる会計システムが必要
- インド固有の複雑な税制へ対応しながら効率的に請求業務を行えるようにしたい



導入後の効果

- 会計事務所とのコソーシングにより、少ない人的リソースで負荷なく会計システムを運用できる体制を構築
- 請求業務にとどまらず、現地法人側で行う経理業務の範囲を段階的に拡張できる基盤を確立
- インドの監督省庁の指摘にも迅速に対応し、現地法人設立後の初の本決算も円滑に遂行

インドでビジネスを拡大し 今後の決算業務をスムーズに行えることを確信

インド進出企業の要望を受けて 現地法人を設立

企業、官公庁、団体向けの各種旅行サービスで70年以上の歴史を持つ阪急阪神ビジネストラベル。複雑な渡航手続きのノウハウを蓄積し、要望に応じた最適な航空運賃の提案や100カ国以上の査証申請実績、旅行立案から精算までの業務効率化提案などで、多くの顧客から高い評価を獲得している。

2022年6月には、同社はインドに現地法人を設立した。同社はこれまで親会社の阪急交通社が世界各地に展開する現地法人と連携してビジネスを行ってきたため、同社独自の海外拠点としては初の現地法人である。

インド法人の社長を務める西川和彦氏は、「それまでは駐在員事務所でお客様対応を行ってきましたが、インドに進出する日系企業が増えるに伴い、『渡航者の旅費精算まで行ってほしい』というご要望が多く寄せられるようになりました」と、現地法人化の経緯を説明する。

これに合わせて求められたのが、主に請求業務を担う会計システムである。「在インド企業のお客様との取引内容を精査し、効率的に情報を管理するにはどのようなシステムを利用するのが最適なのか、汎用性や拡張性といった観点から検討を進めてきました」（西川氏）

請求業務対応にあたって直面した インド固有の複雑な税制の壁

インドにおける請求業務対応は容易ではない。阪急阪神ビジネストラベルの中山尚彦氏は、日本との違いをこう語る。「例えばインドではタックスインボイスとリインバースメントインボイスという2種類の請求書を使い分ける必要があります。請求項目がインド固有の税制であるGST（付加価値税）の対象であるか否かで請求書を使い分けたり、1つの注文に対して請求書が2通になったりするケースもあります。未収入金管理も日本と比べて非常に複雑です」

このような中で、会計システムとして選ばれたのが「GLASIAOUS」である。同ツールを提案した日本経営ウィル税理士法人のインド法人ディレクター 藤井邦夫氏は選定理由をこう語る。

「ローカルスタッフがいないともお客様側自身で手軽に請求や入金消込業務を行い運用できるツールであることが重要だと考えました。請求関連のシステムは各国の要件に対応していないと十分な使い勝手が得られない中で、国外でも広く使えるGLASIAOUSはインドを重要な拠点の1つと位置づけ、同国での利用にも対応しているため、当社としても自信をもって提案することができました」（藤井氏）

さらに西川氏も「日本本社との連携という観点では、同じ画面を見ながらリアルタイムに情報を確認できるクラウドのツールであることは不可欠でした。現地でも本社でも扱える多言語対応であること、将来的にERPとしての活用も視野に入れるとGLASIAOUSが最適でした」と語る。

CASE STUDY

旅行

株式会社 阪急阪神ビジネストラベル



阪急阪神ビジネストラベル
取締役常務執行役員
Hankyu Hanshin Business
Travel India Pvt.Ltd.
Chief Managing Director
西川 和彦 氏



株式会社阪急阪神ビジネストラベル
管理部
中山 尚彦 氏



日本経営ウィル税理士法人
トータルソリューション事業部
海外チーム 次長
NIHON KEIEI (INDIA)
PRIVATE LIMITED
Director
藤井 邦夫 氏

会計事務所と業務分担することで 拡張性の高い会計業務基盤を確立

こうして GLASIAOUS の導入を決定した同社は、運用体制を固めてきた。「インド法人の事業内容や取引形態そのものも未確定だった中で、どのようなマスター登録を行うのか、どんな成果物が必要になるのかといったイメージを日本経営との間で何度もやり取りを重ねてきました」と西川氏は振り返る。

その後、インド法人の設立と同時に、同社では GLASIAOUS の運用を開始した。現状では請求書発行までを同社インド法人が行い、記帳代行などその先の業務全般を日本経営に委託している。人的リソースが限られる中、コソーシング（会計事務所との業務分担）により、特定の担当者に依存せず、かつ拡張性の高い業務基盤を構築した形だ。実際に、今後業務の習熟度が高まっていくに従ってこの役割分担も随時見直していきたいと中山氏は話す。

「GLASIAOUS に多くの情報が蓄積されていくに伴い、未収入金や未払金の残高、経費の状況、キャッシュフローなど、業務上で特に重要な項目の数値については、日本経営に都度問い合わせるのではなく、私たち自身で随時把握できる体制を早期に確立したいと考えています」（中山氏）

また阪急阪神ビジネストラベルの日本本社とインド法人、日本経営が緊密に連携しながら GLASIAOUS を活用している中で、さまざまな効果も表れはじめている。

「2023年3月期にインド法人として初めての決算期を迎え、GLASIAOUS を用いて決算書類を作成しました。勘定科目の並び替えや科目名称の変更などを求められるところもありましたが、迅速に対応することができました」（中山氏）

「この成果は GLASIAOUS および日本経営の柔軟でスピーディーな対応力の高さによる貢献にほかなりません。今後もインドでビジネスを拡大しつつ、今後の決算も確実にこなしていけるという確信をもつことができました」（西川氏）

データの有効活用も含め 利用範囲を拡大していく

今後に向けても同社インド法人では、GLASIAOUS の有効な活用方法を模索していく考えだ。そのテーマの1つが、GLASIAOUS に蓄積されたさまざまなデータの有効活用である。GLASIAOUS では、業務で入力したデータが即座に反映されるため、「ふと思いついたときに気になる数値をリアルタイムで確認できるというメリットを、インド法人の経営戦略にも生かしていきます」と西川氏は説明する。

さらに、同社では GLASIAOUS を本格的な ERP として活用することも視野に入れている。「現状では請求書発行機能を利用して売上を都度計上していますが、営業未収入金管理にも取り組んでいく予定です。また Excel にデータを取り込んで手作業で管理している立替金（未請求債権）や未払金なども、GLASIAOUS 上で直接管理することで、さらなる業務効率化につなげていきたいと思っています」（中山氏）



タイ工場と日本本社の両拠点に GLASIAOUSを導入 国内外双方の課題を解決し 業務効率の改善と管理会計を強化

テンタック株式会社

RFIDタグなどで業界トップクラスの販売シェアを誇るアパレル副資材メーカーのテンタック株式会社(以下、テンタック)のタイ工場は、長年利用してきたERPシステムのリプレースに際して、ビジネスエンジニアリング(B-EN-G)の「GLASIAOUS」に注目。この動きを受けて日本の本社側でも関心が高まり、両拠点での導入を決定した。これによりタイ側では、Excelに依存したデータ管理から脱却し、業務効率化を実現。一方の日本側でも従来からの課題となっていた多通貨対応を実現するとともに、管理会計の高度化を加速させている。

TENTAC

テンタック株式会社

<https://www.tentac.co.jp>

創 立 1972年10月

資 本 金 1億円

従業員数 381人(2022年12月末日現在)

事業内容 衣料副資材の企画・製造・販売及び情報システム、
情報タグの製造販売バーコード関連機器販売

前身となるテントス株式会社を1972年に設立。1982年に三省テルタックと合併したのを機に社名をテンタックと改めた。アパレル副資材業界において国内トップクラスの販売シェアを有するとともに、80%を超える高い自社生産比率を特徴とする。多彩な資材の生産能力を活かし、アパレル業界以外への生産供給も行っている。2022年からは特にニーズの大きいRFIDタグとサステナブル素材を事業部として独立し、より迅速に幅広い業界のニーズに対応できる体制を整えた。

キーワード 多通貨対応／日本とタイ共通の会計システム導入／管理会計の強化／Excelに依存した業務プロセスの刷新／IT導入補助金の活用

導入製品 GLASIAOUS

POINT タイでは、現地の税制対応や現地スタッフがサポートできる安心感を評価。日本においては、多通貨対応機能や既存の会計システムでは難しかった管理会計強化に貢献できる機能を評価し選定。

導入前の課題

- タイ工場で利用してきたERPシステムはサポート終了が近づいているほか、周辺システムとの連携も不十分であった
- 日本本社で利用してきた既存の会計システムには多通貨対応機能がなかった
- 補助科目の登録制限や予実管理などの機能不足により、管理会計を経営に生かすことが困難だった



導入後の効果

- タイ工場におけるExcelに依存したデータ管理から脱却し、業務を効率化
- 勘定科目やマスター設定を見直したことで検索性が向上し、経営管理に貢献するデータ活用を促進
- 2拠点が同じ会計システムを導入することで、それぞれの課題解決を一挙に促進

GLASIAOUSを国内外で2拠点同時導入 日本では管理会計を強化したいニーズに寄与

タイと日本双方にて会計システムに課題

テンタックは、アパレル商品などにつけられるブランドネームタグやプライスタグ、洗濯ネーム、パッケージなどの副資材を手掛ける卸売業として創業し、製販一体の総合資材メーカーへと業態を転換している。

同社 執行役員 管理本部 本部長 兼 財務経理部 部長の小泉 敦男氏は、「現在では非接触で高速データ読み取りが可能なRFIDタグを主力商品とするほか、SDGs時代のニーズを受けて、プラスチック製品を焼却処分する際に発生するCO2を大幅に削減する『グリーンナノ』や、プラスチックに劣らない強度を有する紙フックや紙ハンガーを実現した『カミナノシリーズ』など、サステナブル素材分野でも経営の多角化を進めています」と語る。

これらの事業を推進する同社は、現在国内外に複数の生産拠点を構えているが、その1つであるタイ工場では、業務システムに関するある課題に直面していた。

「タイ工場ではタイ国内で一般的なERPシステムを導入していましたが、バージョンが古くサポート終了が近づいていました。また、独自開発した生産・販売管理系システムとの連携部分がブラックボックス化しており、改修するとデータの不整合が生じる状況となっていました」（小泉氏）

会計システムについては、同じく日本側でも課題を抱えていた。同社 管理本部 財務経理部 経理課 課長の久保田 直樹氏はこう語る。

「クラウドベースの国産会計システムを利用していましたが、多通貨対応できないことが最大の問題でした。さらに、データ入力・保存に関する仕様上の制約から、補助科目や予実管理などの管理会計面での機能が不足しており業務上のネックとなっていました。しかし、会計や他の機能も含めたフル機能での料金プランは、当社の使い方ではオーバースペックとなり、コストが割高となっていました」

現地スタッフによる充実したサポート 日本ではIT導入補助金の申請支援も

これらの課題の解決策を模索していた中、まずタイ側で有力候補として浮上るのがB-EN-GのGLASIAOUSである。当初は現地のパッケージやサービスを中心に検討を進めていたが、長年取引のあるコンサルティング会社から紹介されたのがきっかけだ。

「タイ現地の税制に対応するとともに、債権債務や販売・購買管理と会計の一元管理も可能であるなど、GLASIAOUSは私たちが求める機能を十分にカバーしていることがわかりました。またB-EN-Gがタイに拠点を構えており、日本語で意思疎通ができてサポートを受けられるという点で、非常に大きな安心感がありました」（小泉氏）

この動きを受ける形で、日本側でもGLASIAOUSに対する関心が一気に高まった。「これまでと同様にクラウドベースであること、多通貨対応が可能であること、そして何より管理

CASE STUDY

製造

テンタック株式会社



テンタック株式会社
執行役員
管理本部 本部長 兼
財務経理部 部長
小泉 敦男 氏



テンタック株式会社
管理本部 財務経理部
経理課 課長
久保田 直樹 氏

会計を高度化していくための充実した機能を備えていることに大きな魅力を感じました」と語る久保田氏。両拠点で同じ会計システムを利用することにより、データの確認を容易にする狙いもあったという。

さらに日本側でのGLASIAOUSの導入を後押ししたのが、IT導入補助金の申請サポートである。IT導入補助金とは、中小企業・小規模事業者の業務効率化やDX推進のために中小企業庁が実施する補助金制度で、GLASIAOUSもその対象だ。「B-EN-GがIT導入支援事業者として申請書の作成から親身にサポートしてくれたおかげで、スムーズに手続きを進めることができました」と久保田氏は振り返る。

経理管理に必要な データの検索・集計スピードが向上

テンタックは、まずタイ工場から GLASIAOUS 導入を進め、旧システムとの並行稼働を経て 2023 年 7 月より GLASIAOUS へ一本化。日本本社側も旧システムからの移行を完了し、同年 8 月からの運用を開始した。これによって両拠点の業務は大きく改善された。まずタイ工場で実現したのが Excel に依存したデータ管理からの脱却である。

「旧システムでは独自開発した生産・販売管理システムとの連携が不十分で、債権債務データを Excel に取り込んで管理するほか、製造原価報告書も Excel 上でマクロを組んで出力していました。GLASIAOUS に移行することで、こうした属人化した煩雑な業務を効率化することができました」（小泉氏）

一方、日本側で得られた最大の効果は管理会計の高度化によるスピード経営の実現である。「GLASIAOUS への移行にあわせて、勘定科目や補助科目の見直しを含めたマスター設定を入念に行ったことで、データの検索・集計スピードが大幅に向上しました。おかげで経営層からの『このデータが見たい』という要求に対しても、数分から十数分程度のレスポンスで回答できるようになりました」（久保田氏）

データ蓄積にあわせて 管理会計機能の利用を拡大

テンタックでは、蓄積されていくデータを利用し、今後管理会計機能の利用をさらに拡大していく考えだ。「例えば、前年度対比や予実対比を、部門別や商品セグメント別など自由な切り口で行えるようにするなど、弊社にとっての最適な管理会計のあり方を模索していきます」と久保田氏は語る。

現在、GLASIAOUS では、すでに経費や固定資産、勤怠管理・給与などの他のシステムからデータを取り込む運用を行っているが、今後さらに「mcframe 原価管理」をグローバル全拠点で導入する計画にある。

「中国の上海拠点を皮切りに順次展開を進めている過程にあり、タイ工場への導入が完了した時点で、GLASIAOUS とのデータ連携を進めていく前提です。同じ B-EN-G 製品ならではの親和性を生かしながら、さらに多角的な観点でのデータ活用を実現したいと考えています」（小泉氏）



ビジネスエンジニアリング株式会社



アジアパシフィック各拠点の 経理業務をGLASIAOUSで標準化 財務諸表の質向上と決算早期化で スピード経営推進に貢献

株式会社フリークアウト・ ホールディングス

創業以来の主力事業である広告分野のみに留まらず、企業のマーケティング活動やビジネスを推進する多彩なプロダクトを国内外に幅広く展開するフリークアウト・ホールディングス。同社は特に注力しているアジアパシフィック地域において、拠点ごとにバラバラだった経理業務のオペレーションを標準化すべく、新たな会計システム基盤としてビジネスエンジニアリング(B-EN-G)のGLASIAOUSを導入した。これによって現在では、財務諸表の精度向上や月次決算早期化をはじめ、スピード経営をグローバル全体で推進していくための体制を強化している。



株式会社フリークアウト・ホールディングス

<https://www.fout.co.jp/>

創業 2010年10月
資本金 3,552,049千円 (2024年9月末時点)
従業員数 1,015人 (2024年9月末時点)
事業内容 広告プロダクトを中心とした企業のマーケティング支援を国内外で幅広く展開

アドテクノロジーの会社として創業し、国内で初めてRTB(リアルタイム入札)による広告枠買い付けを行うDSP (Demand Side Platform) 製品をリリース。以降も国内外の企業のM&Aを重ねながら事業を拡大し、現在ではDMP (Data Management Platform) やデジタルサイネージ、インフルエンサーマーケティング、メディア収益化プラットフォーム、小売インスタメディアなど広範なサービスラインアップで企業のマーケティング活動を支える事業を展開する。

キーワード 多言語対応／複数拠点での経理業務オペレーションの統一／財務諸表の精度向上／経理業務の集約／アウトソーシングコスト削減／月次決算の早期化

導入製品 GLASIAOUS

POINT GLASIAOUSは多言語に対応しているほか、チャット機能も備わっているため、会計システム内でコミュニケーションを完結できる点を評価。日本語で送ったメッセージは各拠点のスタッフには現地の言語に自動的に翻訳されて伝わるため、さまざまな言語環境があるグローバル企業に有益なシステムと判断。

導入前の課題

- 拠点ごとに異なる会計システムが導入され、オペレーションが異なっていた
- 各拠点から提出される財務諸表の精度にばらつきがあった
- 人的リソースが少ない拠点では経理担当者が長期休業すると業務が滞るリスクがあった



導入後の効果

- システムを統一することで経理業務オペレーションを標準化し、各拠点からの財務諸表について一定以上の精度を確保
- アジアパシフィック10拠点の月次締めが出揃うまで日数が約10営業日から6営業日に短縮
- 経理業務オペレーションが標準化出来たことで複数拠点の経理業務を一箇所に集約、俗人化の解消・バックアップ体制を構築すると共にアウトソーシングコストの削減を実現

アジアパシフィック全体の経理業務オペレーションを標準化 人的リソースが少ない拠点を補完できる会計基盤を構築

会計システムが各拠点で異なり 業務や財務諸表の精度にばらつきがあった

祖業である広告配信プラットフォーム事業を中核に、企業のビジネスやマーケティング活動を支援する多彩なプロダクトとグループ会社を擁し、グローバルに事業を展開するフリークアウト・ホールディングス。現在、約50社のグループ企業が世界各国で活動しているが、特に注力している地域の1つがアジアパシフィックだ。

日本国外では、シンガポール、タイ、インドネシア、台湾など10か国に拠点を展開し、ビジネスを拡大している。だが、これらの拠点の運営で課題となっていたのがシステム整備の遅れである。

同社 APAC Region Directorの金川直貴氏は、「拠点ごとに異なる会計システムが導入されており、ほとんどの拠点では現地の会計事務所に業務をアウトソーシングしていました。また、拠点ごとにそれぞれオペレーションが異なっており、アウトプットされる財務諸表のクオリティにもばらつきがありました」と語る。

また、アジアパシフィックの各拠点は総じて規模も小さく、バックオフィスを担当している要員は1～3人程度しかないのが実情だ。このため、担当者がもし休職・退職したりしてしまうと業務が一時的に滞っていた。

これらの課題を抜本的に解決するために同社が検討したのが、会計システムの統一を起点としオペレーションを再構築することである。「アジアパシフィック全体で業務オペレーションを標準化し、将来的な経営統合も視野に入れながら中核拠点到業務を集約することで、人的リソースが少ない拠点のバックオフィスを補完できる体制を整えたいと考えました」（金川氏）

GLASIAOUS導入で グローバル標準のオペレーション実現へ

グローバル標準となる会計システムの導入に向けて、同社が実現したいと考えていたのが業務の効率化および高度化である。「まずは周辺システムとの自動連携を含め、できる限り手作業をなくしたいと考えました。その上で単一のシステム業務を標準化し、各財務諸表についても一定以上の質を確保します。最終的には、経営層の意思決定に役立つ管理会計のレポートを実現したいと考えました」（金川氏）

これを基本要件として複数のクラウドベースの会計システムを調査・検討した結果、同社は2021年にGLASIAOUSの導入を決定した。

「多言語対応が大きな要因でしたが、ほかにも翻訳機能付きチャット機能が組み込まれており、会計システムの中でコミュニケーションを完結できる点も評価しました。こちらから日本語でメッセージを送れば、相手には現地の言語に翻訳されて伝わります。こうした機能を標準で利用できるのはGLASIAOUSだけでした」（金川氏）

CASE STUDY

広告・マーケティング

フリークアウト・ ホールディングス



株式会社フリークアウト・
ホールディングス
APAC Region Director
金川 直貴 氏



株式会社フリークアウト・
ホールディングス
APAC Administration Division
Law Yuk Wun 氏



株式会社フリークアウト・
ホールディングス
APAC Administration Division
横川 真士 氏

約2年半で8カ国への横展開を完了 月次の締めが6営業日で揃うように

その後同社は台湾を皮切りにタイ、インドネシア、フィリピン、マレーシア、ベトナム、シンガポール、韓国へのGLASIAOUSの横展開を推進。約2年間をかけてこれらの拠点への導入を完了した。

もっとも、この過程では多くの苦労もあったという。APAC Administration DivisionのLaw Yuk Wun氏は、「会計処理に関しては国ごとに異なる法規制があります。たとえばベトナムでも独自の勘定項目があり、旧システムからGLASIAOUSへのデータマッピングにも多くの時間を費やしました」と振り返る。

そうした中で高く評価しているのが、B-EN-Gのサポートによる貢献である。「なぜオペレーションの標準化が必要なのか、前提となる考え方の周知をはじめ、現地スタッフと二人三脚でプロジェクトを進めてもらったので本当に助かりました」とLaw氏は振り返る。

現在、GLASIAOUSは多くの成果をもたらしている。APAC Administration Divisionの横川真士氏は、「元々の目標としていたオペレーションの標準化ならびに自動化による工数削減については、ほぼ狙いどおりに達成できています。例えば以前は各拠点の月次の締めが出揃うまでに10営業日以上を要していたのですが、現在は6営業日以内へ短縮しています」と語る。

さらに注目すべきは、会計業務をマレーシア拠点に集約したことによるコスト削減およびクオリティの向上だ。「バックオフィス業務を担当しているスタッフが少ない拠点も会計事務所などへアウトソーシング依頼する必要がなくなり、その分の費用を削減できます。また業務を集約することによりクオリティの向上も図る事ができました。現在はまだまだすべて拠点の業務を集約できておらず取り組みの途中ですが、将来的にはアウトソーシング費用を30%程度削減できる見込みです」（金川氏）

経営判断に資するデータ提供や連結 決算とのシームレスなデータ連携を目指す

もっとも、同社における会計システム統合のプロジェクトは、まだ道半ばである。「各拠点での日々のオペレーションがようやく落ち着いて回り始め、財務諸表の精度も向上してきました。次の大きなテーマは、経営層に向けて管理会計の観点から有益な情報を提供できる仕組みづくりです」（金川氏）

ほかにも、各拠点のオペレーションにてさらなる改善や効率化も進めていこうとしている。例えば一部の拠点では経費精算のアプリケーションなどを運用しているが、業務自動化を目指し、GLASIAOUSとの機能連携を進めていきたいと金川氏は語る。

「最終的には各拠点の月次決算が締められた時点で、作成された財務諸表が即座にグループ全体に共有され、その数字が連結決算に自動的に反映されていく形を目指しています」と金川氏は語り、GLASIAOUSをベースとする会計基盤でさらなるスピード経営を追求していく構えだ。



ビジネスエンジニアリング株式会社



ハウス食品グループ本社株式会社
ハウス食品株式会社
ハウスウェルネスフーズ株式会社
ハウスビジネスパートナーズ株式会社
朝岡スパイス株式会社

ハウス食品グループ本社 株式会社

ハウス食品グループでは、カレーやスパイス製品を中心に、アジア、アメリカ、ヨーロッパなど世界各地で事業を展開している。インドネシア拠点のシステム保守期限が迫っていたことに加え、日本本社が各拠点の財務・経営状態を正確にモニタリングできる体制の構築とガバナンス強化を図るため、ビジネスエンジニアリング (B-EN-G) のクラウド型国際会計&ERP サービス GLASIAOUS を導入した。その後、台湾、ベトナム、タイでもシステムを統一し、本社からリアルタイムな状況把握が可能になり、ガバナンス強化を実現した。



ハウス食品グループ本社株式会社

<https://housefoods-group.com/>

創業 1913年
資本金 99億4,832万円 (2025年3月31日現在)
従業員数 480名 ※連結:6,666名 (2025年3月31日現在)
事業内容 グループ戦略立案、事業会社 (国内・海外) への経営サポートならびに国際事業統括

食を通じて人とつながり、
笑顔ある暮らしを共に作る
グッドパートナーをめざします。

時代によって食のカタチが変化しても、変わらない食のチカラがあります。
食のチカラは、人を育み、人をつなぎ、人を笑顔にします。

私たちハウス食品グループは、食を通じておいしさと健康をお届けし、人とつながり、人と人をつなげたい。
絆やぬくもりを大切に、すべてのステークホルダーと共に笑顔ある暮らしをつくりたい。

常に新しい価値を創造しながら。
家庭の食卓はもちろん、外での食事、さらに世界でも。
食に関わるすべてのシーンへ。
お客さまの笑顔、社員とその家族の笑顔、そして笑顔あふれる社会を共に作る
グッドパートナーをめざします。

ハウス食品グループが 海外4拠点にGLASIAOUSを導入 グローバルERP導入成功の 秘訣とは

キーワード 日本からのタイムリーなデータの確認/
グローバルな経理財務業務/多言語・多通貨対応/
ガバナンス強化/現地での伴走支援

導入製品 GLASIAOUS ERP

POINT GLASIAOUSサービスの運用実績と海外での導入経験、
現地サポート体制の充実を評価

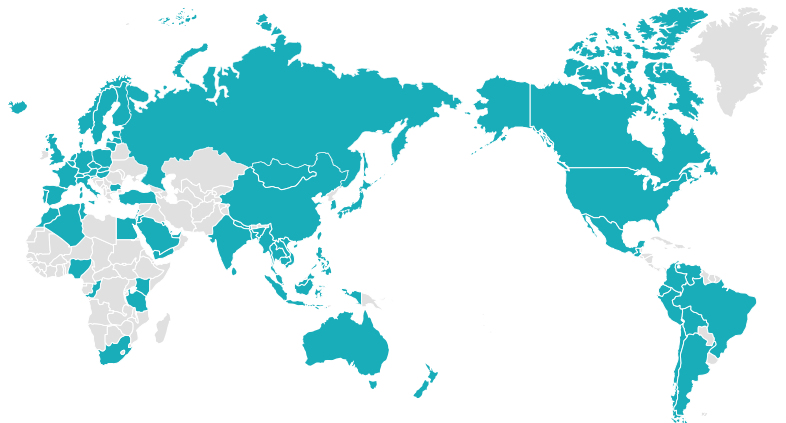
導入前の課題

- インドネシア拠点のローカルシステム保守期限が迫っており、リプレースが急務だった
- 各拠点へのデータ提供の依頼と報告作業に時間と工数がかかっていた
- 各国で現地の状況が把握しづらい状態となっており、横展開を見据えた製品選定が必要だった



導入後の効果

- 現地サポートを利用し、プロジェクト開始から3カ月でインドネシア拠点を刷新
- 各拠点と日本本社間でスムーズに情報が連携されるようになった
- 台湾・ベトナム・タイに横展開を行い日本本社から各拠点の状況の見える化を実現



GLASIAOUSのサポートカバー地域
B-EN-G 現地法人・パートナー企業が導入をサポート

海外関係会社の拠点に現地法人があり、その現地サポート体制が決め手に現場を巻き込んでの導入が成功の鍵

現地システムが見えない 財務情報の収集に膨大な工数

ハウス食品グループは、香辛・調味加工食品事業を中心に健康食品、海外食品、外食など幅広い事業をアジア、アメリカ、ヨーロッパなど世界各地で展開している。同社インドネシア拠点では、カレールウを中心に、現地の食文化に適応した商品開発・生産・販売を行っている。

この拠点では、ローカルシステムの保守切れが迫っており、会計システム刷新の必要性が高まっていた。同様の課題は他拠点でも想定されており、将来的な横展開を見据えたシステム選定が求められていた。同社国際事業推進部の石川氏は、GLASIAOUS導入前の課題について次のように語る。「各拠点は現地のローカルシステムを使用しており、日本本社側からは、リアルタイムで財務状況を把握するのが困難な状態でした」

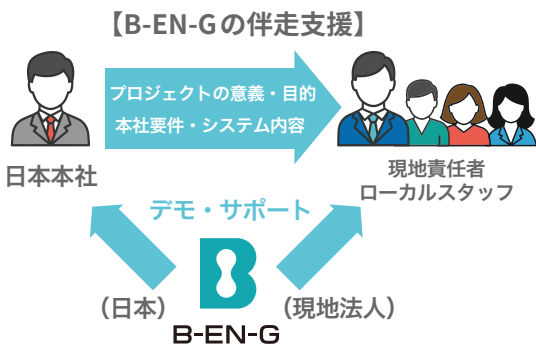
この状況は複数の問題を引き起こしていた。日本本社の財務部門が経営状況を把握するためには、現地に都度データを要求する必要があり、その正確性の確認も困難だった。さらに、連結を担当する財務部、管理会計を担当する海外事業の支援部署、営業部門など、複数の部署から個別に情報依頼が入ることで、現地スタッフの負担は大きく、本社側でも現地側でも大きな工数がかかっていた。この課題は、各国共通で、統一したシステム基盤の構築が求められていた。

現地法人による伴走支援と 実績の安定性が選定の決め手に

こうした背景から、同社が重視したのが日本本社からガバナンスを効かせやすいモニタリング機能や承認権限の設定機能だった。さらに、会計・在庫・販売・購買を一気通貫で管理できる機能を持ちながら、海外拠点でも運用できるシンプルさを兼ね備えている点も評価された。

そして決定的だったのが、現地サポート体制の充実だ。「インドネシアやベトナムなど、私たちの海外拠点のほとんどに現地法人があり、しっかり伴走してサポートいただけるという点が最大のメリットでした」と石川氏は語る。

加えて、GLASIAOUSの長年の海外での運用実績とB-EN-Gという企業規模・安定性も重要な選定理由となった。「長年の経験があるベンダーと一緒に取り組めることは、大きな安心材料でした」と石川氏は評価する。



CASE STUDY

食品・卸売

ハウス食品グループ本社 株式会社



ハウス食品グループ本社株式会社
国際事業推進部

石川氏

成功の鍵は「現場の納得」 キックオフ前に現地訪問し目的を共有

2022年10月にインドネシアでプロジェクトがスタートし、わずか3ヵ月後の2023年1月には稼働を開始。この成功の背景には、石川氏の徹底した現場重視の姿勢があった。

「ローカルスタッフもプロジェクトに関わり、その後の運用も担うため、まず理解して納得してもらうことが重要でした」と石川氏は振り返る。プロジェクト開始前には、現地を訪問してローカルスタッフや現地責任者に対し、プロジェクトの目的や意義を丁寧に説明。デモも日本と現地のB-EN-G拠点の担当者として何度も実施し、現場の理解を深めていった。

「日本本社側だけで進めると、運用開始後にうまく回らないリスクがあります。最初の段階から本社の要件やシステムの内容をしっかりと共有し、納得いただいた上で進めることが最も重要でした」と、現場を巻き込む重要性を強調した。

本社・現地の工数削減と 内部統制強化を両立

GLASIAOUS導入により、複数の効果が得られた。帳票類をシステム内で作成できるようになり、本社・現地双方の工数が削減された。「現地への情報依頼や、データを出力して渡す工数がなくなり、日本から直接必要なデータを取り出せるようになりました」と石川氏は語る。

また、共通の画面を見ながら議論できるようになったことで、コミュニケーションの質も向上した。4拠点すべてが同じGLASIAOUSを使用しているため、操作方法が統一され、業務効率も向上した。システムが日本語対応のため、海外経験の少ない駐在員でも現地の会計情報を確認でき、承認作業も可能になった。ガバナンス強化の面では、システム内で承認ルートを設定し、権限を各自に付与することで、内部統制も強化された。

AI-OCRや他システム連携で更なる効率化へ 拡大する事業に伴走を期待

ハウス食品グループでは、GLASIAOUSの活用をさらに広げる取り組みが進んでいる。その一つが、AI-OCR機能だ。請求書データの自動読み取りにより入力業務を大幅に削減できるもので、タイ拠点ですでに利用が始まっており、他拠点への展開も検討されている。

また、GLASIAOUSと既存の他システムとのインターフェース構築が進められており、部署を横断した取り組みへと発展しつつある。「導入を進めていく中で、他部署からも認知されるようになり、最近ではシステム部門と一緒にプロジェクトに入っていました」と石川氏は語る。

現在、新たにインドネシアの製造拠点への導入プロジェクトも進行中だ。「B-EN-Gには、最も弊社のことを知っているシステムベンダーとして、一緒に伴走していただきたいと考えています」と石川氏は期待を寄せる。

B-EN-G

ビジネスエンジニアリング株式会社



トレノケートホールディングス株式会社

世界 24 の国と地域で IT 人材育成事業を展開するトレノケートグループのホールディングス会社であるトレノケートホールディングスは、グループの海外拠点拡大に伴い、多通貨管理における課題や日本本社・シンガポール拠点において従来のシステムの機能不足による業務の非効率性が課題となっていた。そこで、ビジネスエンジニアリング (B-EN-G) の多言語・多通貨対応のクラウド型国際会計&ERP サービス「GLASIAOUS」を採用。旧来のオンプレミス型システムから脱却し、外貨換算の自動化や場所を選ばない業務環境を構築することで、経理業務の正確性と効率性を向上させた。



トレノケートホールディングス株式会社

<https://www.trainocate-holdings.com/>

創業 2017 年 10 月 5 日

事業内容 IT 技術教育およびビジネススキル教育を中心とした人材育成業務の統括

トレノケートグループは、IT およびビジネス分野の IT 人材育成ソリューションを提供しています。世界 24 ヶ国で 30 年以上にわたり事業を展開し、AWS、マイクロソフト、Google、シスコなどの主要 IT ベンダーの認定トレーニングから、高度 IT 人材の育成、ビジネススキル教育まで、幅広い専門性を備えて、激変するビジネス環境における企業の競争力強化を支援しています。米 Training Industry 社の Top 20 Training Companies に複数年連続選出されるなど世界基準の教育品質を誇り、企業の DX 推進と高度 IT プロフェッショナル人材の育成をグローバルに提供しています。

導入支援なしでもスムーズに 日本とシンガポールの会計基盤を 低コスト・短期間で統一

キーワード 多通貨・多言語対応／脱オンプレミス／自社導入 (QuickStart 活用) ／ IT 導入補助金活用／外貨換算の自動化／債権債務管理の統合／月次決算早期化／クラウド化

導入製品 GLASIAOUS

POINT グローバル展開に不可欠な「多言語・多通貨対応」と「クラウド基盤」を前提に、IT 導入補助金の活用による初期コストの大幅な抑制や、直感的な UI と導入支援ツール「QuickStart」により、自社で短期間に導入・定着が可能であることも採用の決定打となった。

導入前の課題

- 従来のシステムは、多通貨管理に未対応のため、外貨換算を手作業で行う負担があった。
- オンプレミス型で特定の PC でしか作業できず、柔軟性が低かった。
- 他システムとの連携ができず、非効率でミスが発生しやすかった。
- 債権・債務管理機能がなく、売掛買掛やエージング管理はシステム外で作業していた。



導入後の効果

- 外貨換算が自動化され、作業工数が減り、月次決算が短縮された。
- クラウド型へ移行し、どこからでも会計処理が可能になった。
- 他システムと連携し、業務が効率化され、必要な情報がすぐに見られるようになった。
- 債権・債務管理機能で、売掛買掛の消し込みや残高管理がシステム内で完結できるようになった。

自社導入でコストを抑えて2か月で利用開始 多言語多通貨基盤で月次決算が1~2日短縮

グローバル企業を悩ませた「多通貨管理」と オンプレミス型システムの限界

IT人材育成事業を主軸に世界24の国と地域で事業を展開するトレノケートグループのホールディングス会社であるトレノケートホールディングスは、グループが積極的に海外展開を進める中で、会計業務の非効率性が問題となっていた。

最大の課題は「多通貨管理」であった。日本本社とアジア事業の主要拠点であるシンガポール拠点は、当時同じオンプレミス型のシステムを使用していたが、多通貨に対応しておらず、基本的な機能が備えていなかった。そのため、日本本社は日本円(JPY)、シンガポール支店はシンガポールドル(SGD)と、異なる基軸通貨で記帳しつつ、最終的には日本円で合算して財務諸表を作成する必要があった。

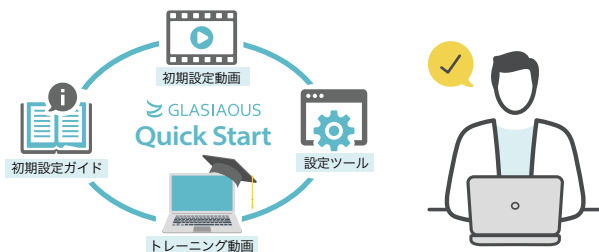
「従来のシステムには債権・債務モジュールが存在しなかったため、すべての取引を仕訳入力で直接処理し、入金消込からエージング(債権年齢)管理まで、システム外で手作業を行っていました」と、当時の状況を管理本部の岸野氏は振り返る。そのため、現地通貨での記帳データを一度出力し、手作業で通貨換算を行わざるを得なかった。

売掛金や買掛金の管理といった重要業務がすべてシステム外の手作業に依存していたため、担当者の負担は大きく、ヒューマンエラーのリスクとも隣り合わせだった。また、特定のPCでしか作業ができないオンプレミス環境は、柔軟な働き方を阻害する要因ともなっていた。グローバル展開が加速する中、これらの「手作業」と「場所の制約」からの脱却は急務であった。

決め手は、多言語・多通貨対応を前提に コストを抑えて2ヶ月でセルフ導入

新システムの選定にあたっては、「多言語・多通貨対応」が必須条件であった。インターネット検索で候補を絞り込む中で、GLASIAOUSが有力候補として挙がった。選定の決定打となったのは、グローバル対応機能に加え、「他システムとの連携のしやすさ」と「セルフ導入でコストを抑えられること」、そして「IT導入補助金の活用」であった。

将来的にグループ会社へ展開し、拠点間データの合算などを見据えた際、GLASIAOUSは、各拠点の業務内容や成長段階に合わせて必要なパッケージを柔軟に選択・追加・連携できるクラウド基盤である点が大きな魅力だった。また、B-EN-Gが提供する導入支援ツール「QuickStart」を活用すれば、詳細な設定マニュアルと導入の流れを可視化した動画を参照しながら、専門的なサポートを受けずとも自社主導でシステム設定を完結できる。導入しやすい価格帯に加え、IT導入補助金を活用して導入コストを抑えられる点も採用の決め手となりました」と岸野氏は語る。



ツールがそろっているから、簡単セルフ導入

実際の導入プロセスでも、QuickStartは大きな役割を果たした。「提供された動画で導入の全体像を把握し、詳細なマニュアルで『どの項目を設定すればどう反映されるか』を確認しながら進めることで、自社での設定作業もスムーズに完結できました」と岸野氏は評価する。

さらに、担当者の劉氏は「詳しい操作説明がなくても次の操作が想像できるため、直感的に操作できて使いやすい」とインターフェースの直感性を高く評価している。こうしたセルフ導入の取り組みにより、問い合わせを最小限に抑えながら、導入決定からわずか2ヶ月という短期間でシステム移行を実現した。

外貨自動換算と債権債務管理の システム内完結で、月次決算が1~2日短縮

GLASIAOUSの導入は、現場の業務フローに大きな変化をもたらした。最も大きな成果は、月次決算の早期化である。

以前は手作業で行っていた外貨換算が、システム上で自動化されたことにより、確認や修正にかかる手間が大幅に削減された。経理担当の尾山氏は、「以前は、入力や換算にミスがあった際、原因を特定する作業に多大な時間を費やしていました。GLASIAOUS導入後は、仕訳ごとに自動で外貨換算が行われるため計算ミスがなくなり、修正や確認にかかる手間が大幅に削減されました」と、その効果を実感している。

また、債権・債務管理もシステム内に統合された。仕訳データから直接、債権・債務のスケジュール情報を作成できる機能を活用することで、消込作業や残高管理がGLASIAOUS内で完結するようになった。これにより、二重管理が不要となり、リアルタイムで正確な数字を把握できる体制が整った。これらの効率化により、月次決算の作業日数は1~2日短縮されている。

さらに、他システムとの連携面でも効果を発揮している。毎月1,000件以上に及ぶ為替データのCSV取り込みもスムーズに処理できるようになり、周辺業務のストレスも解消された。経理担当の石橋氏は、「他社のシステムでは、ファイルのバージョンやフォーマットが少し異なるだけで取り込みエラーになることがありましたが、GLASIAOUSは柔軟性が高く、大量の為替レートデータもスムーズに一括で取り込めます」と評価している。

グループ拡大を見据えて 管理連結強化とセントラル管理への期待

導入から安定稼働を経て、トレノケートホールディングスは次なるフェーズを見据えている。

短期的には、GLASIAOUSのグループ管理機能やデータレベル機能を活用し、単純合算や通貨換算といった管理会計レベルの合算処理をシステム内で完結させる構想がある。これにより、迅速に統合された財務数値を把握できる体制を目指している。

そして長期的には、各拠点の自律的なオペレーションを尊重しつつ、グローバルで統一されたガバナンスを効かせた一元管理を実現すること。世界中のIT人材育成を支えるトレノケートホールディングスのさらなるグローバル成長を支える会計基盤として、GLASIAOUSはその重要な役割を果たしていく。

CASE
STUDY

会計事務所・
税理士法人



4カ国の拠点の会計情報を 1つのシステムで見える化 月次決算を大幅に短縮し 迅速な経営判断を実現

グローバルイノベーション コンサルティング株式会社

2011年4月に、海外進出する日系企業と海外パートナーの支援を目的に設立されたグローバルイノベーションコンサルティングでは、4カ国の拠点が独自に導入していた会計システムを一元化することを決定。ビジネスエンジニアリング（B-EN-G）のクラウド型国際会計アウトソーシングサービス「GLASIAOUS」を選定することで、会計情報の見える化を実現すると同時に、顧客に提供する会計アウトソーシングサービスの基盤を構築することができた。



グローバルイノベーションコンサルティング株式会社
<https://www.gicjp.com/>

設立 2011年4月1日
 従業員数 273名（2019年4月1日現在／海外拠点含む）
 資本金 8,700万円（資本準備金含む）
 事業内容 海外進出・運用支援サービス、バイリンガルITエンジニア派遣事業、ミャンマーオフショア開発事業

「海外進出する日系企業と海外パートナー双方の成功に貢献すること」という経営理念に基づき、日本、ミャンマー、フィリピン、米国の拠点で日系企業の戦略的な海外進出支援、および調査から経理、給与、採用、研修代行までのバックオフィス業務をオールインワンで提供。フィリピンにおけるM&Aやミャンマー人バイリンガルITエンジニアの有料職業紹介業務も展開している。

改善点 ▶ 会計処理の一元化と時間短縮、作業効率化／人材の流動性の確保／迅速な経営判断の支援／顧客企業向けの会計アウトソーシング基盤の構築

導入製品 ▶ GLASIAOUS

POINT ▶ グローバル対応、クラウド対応、かつ海外進出している日系企業への会計処理のアウトソーシングサービスに利用できる点を評価してGLASIAOUSの採用を決定。会計情報の一元化を実現したことで、各拠点の情報を短期間で正確に把握できるようになり迅速な経営判断を可能にしている。

導入前の課題

- 4カ国の拠点で個別に会計処理を行っているため全社的な会計情報が把握しづらかった
- ミャンマーの拠点では会計に通じたスタッフが少なく教育が必要だった
- 本社で一元管理できる会計システムをクラウドサービスとして顧客に提供したい



導入後の効果

- 会計情報の一元化により各拠点の情報を短期間で正確に把握
- 全拠点で同じ会計システムを利用することで人材の流動性も確保
- 会計アウトソーシングのサービスを自社で評価し、顧客に展開するための足がかりに

グローバル対応とクラウドが決め手に 日系企業向け会計アウトソーシングの基盤としても期待

各拠点で異なる会計システム グローバルでの統一が課題に

2011年4月の設立以来、日本、ミャンマー、フィリピン、米国の拠点で、海外進出・運用支援サービス、バイリンガルITエンジニア派遣、ミャンマーオフショア開発を事業として展開するグローバルイノベーションコンサルティング株式会社（以下、GIC）。最大の特徴は、日本人、フィリピン人の社員がそれぞれ全体の5%ずつで、残りの90%がミャンマー人であることだ。女性の比率が約80%であることも特徴の1つである。

代表取締役社長である岩永智之氏は、「海外に進出する日系企業へのコンサルティングが主な事業ですが、近年は日本企業の人材不足もあり、ミャンマー人の日本国内への人材派遣や有料職業紹介のニーズが増えています。2018年は、GICミャンマーで1,300名が試験を受けて350名が合格。ミャンマーの拠点で1年半～2年、無償で研修を受けて日本語検定2級を取得してもらい、日本企業に派遣する事業モデルを展開しています」と語る。

他社との最大の違いは、GICの経理、総務、営業、マーケティングなどの人材もミャンマー人を採用していることだ。岩永氏は、「日本人の社員は少なく、総勢273名の社員が、日本、ミャンマー、フィリピン、米国の各拠点で事業を展開しています」と話す。

GICでは、自社の会計業務においては、国によって言語や通貨、税制などの違いがあるために、各拠点がそれぞれに会計システムを導入して処理を行っていたという。そのため、日本からミャンマー、フィリピン、米国の会計情報を必要なときに把握するのが難しいことが課題であった。管理本部長である岡部清人氏は、「会計システムを拠点ごとに個別に導入していたので、必要な情報を集めようとするにも各拠点に個々に連絡する必要があり、少なからず手間になっていました。年次決算はデータを収集して確認しますが、月次決算は各拠点に任せていました」と話す。この課題解決に向け、GICではグローバルに対応した会計システムの導入を決定することとなった。

自社だけでなく顧客向けの サービス基盤にも使える会計システムを導入

GICでは、2017年9月に、新たな会計システムとしてGLASIAOUSを選定し、米国拠点の設立に合わせて、まずは同拠点に先行導入した。その後、操作性や機能などの検証を実施し、2018年4月から日本、ミャンマー、フィリピンの各拠点に導入した。GLASIAOUS採用の最大の決め手は、クラウドサービスであったことだ。各拠点にサーバーやネットワークを構築する必要もなく、運用管理も不

CASE STUDY

コンサルティング業

グローバルイノベーション コンサルティング株式会社



グローバルイノベーション
コンサルティング株式会社
代表取締役社長
岩永 智之 氏



グローバルイノベーション
コンサルティング株式会社
管理本部長
岡部 清人 氏



グローバルイノベーション
コンサルティング株式会社
管理本部 営業管理
トゥエ ツウエ ライン 氏



グローバルイノベーション
コンサルティング株式会社
管理本部 経理担当
ジン ニン プィン 氏

要だ。ブラウザさえあればどの拠点からでも利用でき、導入から運用までのコストも低減できる。岩永氏は次のように語る。

「いくつかの製品を比較検討しましたが、グローバル対応、クラウドの要件を満たし、かつ海外進出する日系企業のお客さまに向けた会計処理アウトソーシングサービス用途に展開できるシステムはGLASIAOUSしかありませんでした。現在、5名の公認会計士がいるフィリピンの拠点では、すでに20社程度の日系企業に会計のアウトソーシングサービスを提供していますが、今後は新規のお客さまからその業務にGLASIAOUSを使用する計画です。その後は、日本国内でも同様のサービスの展開を検討しています」

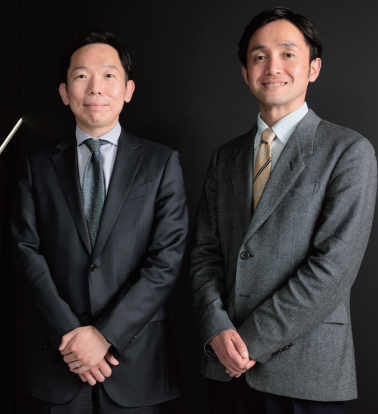
各拠点の会計情報を統合的に把握 経営に必要な情報もすぐに準備可能に

日本、ミャンマー、フィリピン、米国で会計システムを統一したGIC。岡部氏は、「まだすべての機能を使いきれていませんが、GLASIAOUSを導入したことで、会計情報を一元化することができ、各拠点の情報を短期間で正確に把握できるようになったので非常に便利になりました」と話す。

またシステムの統一は拠点間で人材の流動性を高めることにも貢献している。岡部氏は「例えば日本で働いているミャンマー人が自国に帰国してもそこで同じ会計の仕事をすることができます」と話す。

さらに、管理本部で経理を担当するジンニンピン氏は「GLASIAOUSは、債権消込処理が非常に簡単です。以前は、約2日かかっていた作業が、GLASIAOUSであれば半日でできるようになりました」と話す。同じく管理本部にて営業管理を担当するトゥエツウエライン氏は、「請求書の作成には、これまで2つのソフトウェアを使い分けていたのですが、GLASIAOUSを導入してから1つのソフトウェアで作業できるようになったのでワークフローが簡単になり、作業が楽になりました」と話す。

もちろん、そのメリットは経理部門だけではない。岩永氏は、「GLASIAOUSの導入により、各拠点での月次決算が可能になり、数日程度で損益計算書や貸借対照表など、すべての会計資料がそろい、取締役会にも報告できるようになりました。これまでは、各拠点任せだった数字を統合的に見ることができるので、経営判断もしやすくなり、もし問題が発生しても迅速に対応することができます」と説明する。GICでは将来的には、株式上場も視野に入れ、それに向けた準備の一環としてもGLASIAOUSの存在に期待を示している。



CaN International 国際会計事務所

日系、外資系企業の海外事業に係る会計・税務サービスに強みを有するCaN International国際会計事務所（以下、CaN International）。国内外の多拠点で共通の会計システムの導入をサポートする会計事務所が少ない中、同社はクライアントのグローバルビジネスを支援する会計・税務サービスの基盤として、ビジネスエンジニアリング（B-EN-G）のクラウド型会計&ERPサービス「GLASIAOUS」を日本とタイの2拠点で導入。これによって、コンサルタントの会計業務の標準化を進め、場所を問わずに利用できるクラウドの特性を活かした業務効率化や、会計システムの機能を利用した現地税制への対応を実現した。



CaN International 国際会計事務所

<http://www.caninternational.co/>

設立 2012年12月3日

事業内容 海外進出コンサルティング、クロスボーダーM&Aサポート、親会社マネジメントサポート、国際税務コンサルティング、国内税務・アウトソーシング、海外拠点現地サポートなど、クロスボーダーに係る会計・税務コンサルティング業務を展開。シンガポール、香港、タイ、ベトナムに自社の海外オフィスを有する。

CaN Internationalでは、クライアントの事業支援という共通の目的達成のために多様なバックグラウンドを有するコンサルタントが、各自の強みを持ち寄り、時には外部の専門家のコーディネートなども手掛けながらそれぞれの役割を果たす。海外の自社拠点の専門家に加えて、複数の提携先専門家との協業により、クライアントのニーズに対応したワンストップでのサービス提供をクロスボーダーで実現。クライアントが抱える課題を整理し、対応策を提示するのみではなく、実行支援も手掛けるのが特徴。

会計システムの統一で 業務標準化を加速 顧客のグローバルビジネスに 貢献する会計基盤を構築

キーワード 会計基盤統一でコンサルタントの業務を標準化/場所に依存しない業務の実現/クライアントのグローバルビジネスをサポート/会計サービスの品質向上/タイでのe-Tax Invoice対応

導入製品 GLASIAOUS

POINT クラウドサービスならではの場所を問わずに使えるという利便性や、実際に使用したタイ現地スタッフからの評価を踏まえてGLASIAOUSの採用を決定。クラウドに加えて多言語対応を活かしてクライアントの本社と現地のコミュニケーションや業務を円滑にする会計プラットフォームとしての機能にも注目。

導入前の課題

- タイ拠点で用いていた従来の会計システムは、遠隔で利用することができず、言語や機能の面からも使い勝手が悪かった。
- タイ拠点では管理者が扱いやすく柔軟性の高い会計システムが求められていた。
- 日本拠点では、会計事務所の買収に伴い、複数の異なる会計システム及び業務フローが存在しており、コンサルタントごとに業務が属人化していた。



導入後の効果

- 場所に依存せず使える会計システムを採用し、高品質な会計サービスの提供を推進。
- タイ拠点では管理者が扱いやすい会計システムを導入することで、結果として管理者が主導のもとe-Tax Invoice制度にスムーズに対応し、請求作業の工数や印刷・保管・郵送コストの削減を実現。
- 日本拠点、タイ拠点ともに業務が標準化されたことで属人性が排除され、業務遂行及び引継ぎが円滑に。

日本とタイで共通の会計システムを導入 機能アップデートによる利便性向上で社内のシステム定着が加速

会計事務所にとって顧客サポートのための 会計システムの選定は重要事項

CaN Internationalは国際会計事務所として、海外進出を検討・実行する日本企業および日本進出を検討・実行する外資系企業を共にサポートしている。またクロスボーダーM&Aにて豊富な実績を有することも特徴だ。同社がクロスボーダーに係る会計・税務サービス事業を手掛ける中で重要な要素の1つが会計システムである。例えば、クロスボーダーM&A後のPMIサポートでは、買収後に親会社が海外子会社の財務面の状況を適時に把握できる仕組みが必須である。顧客に高品質な会計サービスを提供するためにも、業務基盤となる会計システムの役割は大きい。

そうした中で同社では、2018年にタイ拠点で会計システムの刷新を行っている。当時タイ法人の代表を務めていたCaN International FAS 株式会社の取締役で公認会計士の小田英毅氏はこう振り返る。

「当時使用していた会計システムは、言語面で現地スタッフ以外には扱いにくく、帳票をExcelで出力できないなど機能面で不足していました。加えて、締め日のタイトな日系上場企業のお客様に対して適時適切な会計サービスを提供するためにも、管理者である私が場所や時間を問わずにデータを確認でき、スタッフに指示を出せるシステムの導入を検討していました」

そこで選ばれたのがGLASIAOUSである。選定の決め手について小田氏は、「場所を問わずに使えること、操作が容易であり、外部データのインポートによる記帳が可能であること、出力帳票をカスタマイズしやすい点などを評価しました。タイのスタッフにも実際に扱ってもらい、好感度であったことも理由の1つです。」と話している。

タイ拠点では現在、顧客向けの会計業務はほぼすべてGLASIAOUSを利用して行われており、また2021年からは支店であるチョンブリオフィスにも導入している。クラウドのメリットを生かし、日本人代表がバンコクにいながらチョンブリにあるクライアントの財務情報を把握し、クライアントからの質問にタイムリーに対応できる体制を構築している。

顧客・コンサルタント共にメリットを享受 タイの現地税制度にも対応して業務効率化

場所を問わずに利用できる会計システムの導入によって、タイ拠点ではより柔軟な業務スタイルを実現。コロナ禍の在宅勤務にもスムーズに移行できた。さらに同社の一部の顧客では、GLASIAOUSを通じたコミュニケーションの効率化も実現しているという。

「お客様の日本経理担当者が、海外子会社の会計情報に直接アクセスしてレビューできるため深度のあるコミュニケーションを適時に実施できるようになりました。また日本本社の経理担当者は、現地の状況を日本語で閲覧できるため、海外

CASE STUDY

会計事務所

CaN International 国際会計事務所



CaN International FAS 株式会社
取締役
公認会計士
小田 英毅 氏



CaN International 税理士法人
ディレクター
国際税務担当
山岡 靖 氏

子会社のガバナンス強化にもつながったと評判です」(小田氏)
もう1つの大きな効果がタイでのTax Invoice電子化(e-Tax Invoice制度)への対応だ。従来のインボイス処理では、請求書発行や権限者のサイン、顧客への郵送や社内での書類の保管など、時間とコストがかかっていた。GLASIAOUSは、e-Tax Invoice発行システムにアップロード可能なフォーマットでTax Invoiceデータを抽出することができる。顧客や税務署にはe-Tax Invoice発行システムを使用して、ボタン1つで自動送信できるため、作業工数や印刷、保管、郵送コストの削減を実現している。

[\(タイのe-Tax Invoice制度への対応の詳細についてはこちら\)](#)

会計システムの統一により 業務の標準化を実現

日本拠点でも会計システムが絡む課題が生じていた。CaN International 税理士法人のディレクターで国際税務担当の山岡靖氏はこう説明する。

「弊社は2018年にインバウンド専門の会計事務所を買収しましたが、統合した会社では複数の会計システムが混在しており、弊社グループで利用していたものとは異なるものでした。加えて、弊社では以前から各コンサルタントの業務属人化も課題になっていたため、その標準化を推し進めるためにも会計システムの統一はちょうど良い機会でした」

こうして日本拠点では2019年にGLASIAOUSを導入。その効果を山岡氏はこう話す。「統合した会社と会計システムが統一され、担当者ごとに異なっていた業務手順も標準化できました。属人性が排除されたことで業務の引継ぎも楽になりました。また、既存の会計システムは決まったフォーマットでしかデータ抽出できなかったのですが、GLASIAOUSはExcelへのデータ抽出や加工がしやすく、コンサルタントからも機能面が評価されています」

なお導入では、日本とタイ両拠点とも新システムをいかにスタッフに浸透させるかが最大の課題であったという。それに対して山岡氏は、「システム導入のメリットを説明したり、機能面の理解を進めるために経験豊富なコンサルタントがトライアルで使用した結果を他のメンバーに周知したりしました。GLASIAOUSはユーザーのニーズやリクエストに柔軟に対応して新しい機能を追加したり、改善したりといった体制が充実しています。これも社内へGLASIAOUSを定着させるのに役立ちました」と話す。

今後の展望について小田氏は、「弊社では、海外拠点から集めた財務データをもとに日本の親会社向け財務報告のサポートも行っていますが、GLASIAOUSはそうした業務にも貢献できると思います。特にクロスボーダーM&Aにおいて、海外の被買収先企業は、通常本社とは異なる会計システムを使用しているため、PMIの過程でもGLASIAOUSを活用できるのではないかと考えています。業務の標準化と迅速化を通してより質の高い会計サービスをお客様に提供するためにも、GLASIAOUSが果たす役割は大きいでしょう」と話している。



ビジネスエンジニアリング株式会社



乱立した会計ソフトを統合して 業務効率化と標準化を加速 クラウドを活かした 東京と北海道の分業体制も

BDO税理士法人

グローバルネットワークを活用し、日本企業の海外進出、外国企業の日本進出を総合的にサポートするBDO税理士法人。クライアントの会計業務の効率化と標準化を目的に、ビジネスエンジニアリング (B-EN-G) のクラウド型国際会計アウトソーシングサービス「GLASIAOUS」を導入。業務効率化を実現するだけでなく、クラウドの特性を活かした遠隔地間やリモート環境での円滑な業務遂行に大きく貢献している。



BDO税理士法人

<https://www.bdotax.jp/>

設立 2002年10月1日

事業内容 コンプライアンスサービス、国際税務サービス、移転価格サービス、会計・人事アウトソーシングサービス、組織再編サービス、事業承継・資産税サービスを事業として展開

160以上の国および地域に加盟事務所を有し、約9万人のパートナーおよびスタッフが所属する世界5大会計事務所ネットワークであるBDO Internationalに加盟。提供するサービスは監査、会計、税務サービスのみならず、各種アドバイザーサービスや人事労務サービスを含む各種アウトソーシングサービスなど。顧客の約90%が外資系企業の日本法人で、海外に進出する日本企業にもサービスを提供している。

キーワード 複数の会計ソフトの統一／会計業務の標準化／データ入力
の二度手間を排除／業務属人化の解消／管理の煩雑化の解消
／災害時における在宅勤務の実現／遠隔地での分業体制の
確立

導入製品 GLASIAOUS

POINT 英語、中国語、ベトナム語、タイ語を始めとする多言語や多通貨に対応し、グローバルで使える会計システムである点に着目。クラウドサービスであるため、大企業でなくても初期費用を抑えて手軽に利用開始できることも導入の大きな要因となった。

導入前の課題

- クライアントごとに7~8種類の会計ソフトを使い分けており、業務標準化が困難
- スタッフのスキルや業務のやり方に依存せず、クライアントへの均一なサービス提供を実現したい
- クライアントの海外本社に提出するレポートの翻訳作業が負担



導入後の効果

- 業務の標準化と均一化した品質の成果をクライアントに提供できる体制を加速
- 日英変換が容易になり、レポート作成にかかる時間と工数を大幅に削減
- 会計システムと銀行システムの間で生じていたデータ入力の二度手間も解消

全銀協フォーマット対応

取引日	振込先 No.	振込先名称	振込金額	振込元口座	振込元口座 No.	振込元口座名称
2018/12/15	12101109888997	株式会社 A	100,000	22808121	0309	1987654321
2018/12/15	12101109888997	株式会社 B	200,000	22808121	0309	2888888888
2018/12/15	12101109888997	株式会社 C	300,000	22808121	0309	1123456789
2018/12/15	12101109888997	株式会社 D	400,000	22808121	0309	9876543210
2018/12/15	12101109888997	株式会社 E	500,000	22808121	0309	8765432109



グローバルに広がる会計アウトソーシングサービスを 多言語・多通貨・クラウド対応の会計システムが支える

7～8種類の会計ソフトを使い分け 作業が属人化し、管理も煩雑に

BDO Internationalの国際ネットワークを生かし、会計サービスをトータルに提供するBDO税理士法人では、高度な専門的知識と豊富な業務経験を生かし、クライアントが抱える税務に関する複雑な問題に対処する幅広いサービスを提供している。

特に複数の国や地域で事業を展開するクライアントに対し、日次および月次業務、決算業務、連結決算業務などの支援をアウトソーシングサービスの形で展開している。しかし、クライアントが増加するにつれて業務の煩雑化が課題となっていた。

BDO税理士法人で公認会計士を務める松澤洸生氏は、「クライアントごとに操作方法もそれぞれ異なる7～8種類の会計ソフトを使い分けていたので、業務フローもバラバラで作業が属人化してしまい、管理も煩雑になっていました」と語る。

また、この課題は単に業務効率の問題にとどまらない。BDO税理士法人シニアの内田強氏は、「どのスタッフが業務を行っても常にお客様に同じ品質のサービスを提供できなければなりません。安定した業務品質の再現性をいかに高められるか。そのためにも会計ソフトや会計業務の標準化は重要な課題でした」と話す。

さらにもう1つの課題であったのは言語の問題だ。外資系企業の日本法人をクライアントとして抱える同社では、海外本社への報告として英語のレポートを提出することも業務の1つだ。その英語化は各人が行っており、作業負荷がかかることはもちろん、先述した業務の標準化や品質の均一化を妨げる大きな要因でもあった。

日本語から英語の変換はもちろん 中国語などの多言語を評価

上記の課題を解決するべくBDO税理士法人は、新たな会計ソフトの検討を開始した。海外現地法人の会計情報を一元管理できる利便性から、当初、ビジネスエンジニアリング(B-EN-G)が提供していた海外進出企業向けのグローバル経営管理ソリューション「A.S.I.A.(現mcfame GA)」の導入を検討していたが、オーバースペックでコストが見合わなくなることが懸念材料だった。そんな折に知ったのがGLASIAOUSの存在だ。

「2013年に、A.S.I.A.の機能を絞って手軽に利用できるGLASIAOUSの開発を行っているという話をB-EN-Gから聞き、弊社もユーザーの視点から意見を出し開発に協力することになりました」と松澤氏は話す。

その後GLASIAOUSを本格的に導入したBDO税理士法人では、2016年3月より最初の顧客で利用を開始。現在では約30社のクライアントでの会計業務に活用している。

松澤氏は、「GLASIAOUSを特に評価したのは多言語、多通貨への対応です。日本語から英語への変換はもちろん、中国語、ベトナム語、タイ語も利用できるのは助かりました」と話す。さらに「利用当初は手探りで操作している状態でしたが、利用するクライアントの数が増えるとともにツールへのナレッジも蓄積さ

CASE STUDY

専門・技術サービス

BDO税理士法人



BDO税理士法人
公認会計士
松澤 洸生 氏



BDO税理士法人
シニア
内田 強 氏



出口秀樹税理士事務所
課長
近藤 篤志 氏

れ、より効率的に業務を行えるようになっていきます。継続的に改良が続けられ、ユーザーインターフェースも当初のバージョンから洗練されてより使いやすくなっています」と話している。

レポート作成や支払い関連の 業務で効率化を実感

会計ソフトをGLASIAOUSに統一することで、業務の標準化をより推進するとともに、さまざまなメリットをもたらしている。その1つが多言語対応だ。これまでは海外本社に提出するレポートを英語に変換するために多くの時間と工数がかかっていたが、ボタン1つで言語の変換ができるため、その課題を解消している。英語の得意不得意にかかわらず同じ品質の成果物を提供できることにもつながっている。

また以前では、会計処理と支払い処理のために会計システムと銀行システムの両方に同じ情報を入力していたが、GLASIAOUSに一度データ入力するとFB(ファームバンキング)データを自動生成することができるため、このような二度手間を解消している。

「登録作業だけでなくチェックも1度で済むので、工数の削減はもちろん、確認ミスの低減にもつながり精神的な負荷軽減にもつながっています」と内田氏は説明する。

クラウドを活かして 遠隔地間の業務連携も円滑化

GLASIAOUSがクラウドサービスであることも業務に大きく貢献している。BDO税理士法人と業務提携をしている出口秀樹税理士事務所でも、同じくGLASIAOUSを活用して同社とともにクライアントの会計業務を行っている。

出口秀樹税理士事務所の近藤篤志氏は、「弊社は北海道にオフィスがあるのですが、そこで入力したデータを東京のBDO税理士法人でタイムリーにチェックしてもらえるので、遠隔地でもスムーズなやり取りをできています」と話す。

オンプレミスのソフトであれば、仕訳に間違いがあった場合、例えばメールでの修正依頼や修正したデータの再送といったやりとりが生じるだろう。どのデータが最新なのか判断が難しく管理も煩雑になる。それに対して、「クラウドで共有していれば、データを修正したのでWebで確認してくださいという連絡だけで済みます。こうした仕組みのおかげもあって2020年のコロナ禍でもスムーズに在宅勤務に移行できました」と内田氏は話す。

さらに「銀行の支払処理は事務所の端末からしか行えないものの、GLASIAOUSの支払機能でFBデータを自動生成しておけば、記帳とデータのチェックまでを在宅で行い、出社時は銀行の支払だけで済むようになるので、出社時間を減らすことができました」と続ける。

現在、BDOではサービス提供をしているうちの約30社がGLASIAOUSを使っている。最後に松澤氏は、「売掛金や請求書発行など、まだ使いこなせていない機能も多いので、少しずつ活用していきたいと思っています。GLASIAOUSを使っているクライアントのすべてでより効率的に業務をこなす、より高品質なサービスを提供できる体制を強化していきます」と話している。



ビジネスエンジニアリング株式会社



税理士法人日本経営

企業の海外進出支援事業を強化している税理士法人日本経営は、インドに新たな現地法人を設立し、会計税務や記帳代行などのアウトソーシングを開始した。このサービスの提供基盤、そしてインド法人自らの基幹業務システムとして、ビジネスエンジニアリング (B-EN-G) のクラウド型会計&ERPサービス「GLASIAOUS」を導入。インド固有の複雑な税法や電子インボイスに対応するとともに、インドと日本間のスムーズな情報連携によるグローバル経営を実現している。



税理士法人日本経営

<https://nktax.or.jp/>

設立 1967年
(菱村総合税務会計事務所として開業)

事業内容 企業・資産家・病院・クリニック・介護福祉施設等の税務顧問、税務財務コンサルティング、組織再編、事業承継、国際税務、信託、資産組み換えなど

近畿税理士会・東京税理士会所属。独立系の税理士法人として日本最大級の規模を生かし、法人税務、国際税務、事業承継、相続対策など、顧客の成長・発展に向け総合的かつトップレベルの支援を提供している。企業などの組織の持続的な成長・発展を可能とする、組織再編や事業承継対策に精通したプロフェッショナル集団である。

インド固有の複雑な 会計ルールや税法、 電子インボイスに対応 日本本社との連携を可能とする グローバル経営基盤を構築

キーワード▶ 海外固有の商習慣・税法への対応／電子インボイス対応／海外拠点と日本本社の連携強化／正確な経営判断の支援／会計業務の標準化／データ入力の手間を排除／管理の煩雑化の解消／遠隔地での分業体制の確立／コンソーシアムへの参加

導入製品▶ GLASIAOUS

POINT▶ インドに進出した企業の支援事業の基盤としてGLASIAOUSを活用。また、会計領域の各種専門家とIT企業が一体となってお客様支援を行うと同時に、市場ニーズを共同で検討・最良の製品サービスを市場へと還元する「GLASIAOUSコンソーシアム」に賛同し、活動の幅を広げている。

導入前の課題

- インド法人の設立に伴い、現地の税法に対応した基幹業務システムの新規構築が必要に
- 物品サービス税(GST)をはじめとする税法が複雑
- インドで最も利用されている現地会計ソフトを日系企業が使いこなすのは困難



導入後の効果

- インド固有の会計ルールや税法に柔軟に対応
- インドと日本間のスムーズな情報連携を実現
- GLASIAOUSコンソーシアムをマーケティングの場として活用することで、見込み顧客を獲得

本社とインド拠点間をつなぐクラウド対応の基幹システム 現地固有の会計ルールや税法にも柔軟に対応

インドならではの商習慣 複雑な会計ルールや税法への対応に苦慮

税理士法人日本経営では、法人税務や国際税務、事業承継、相続対策など幅広い案件に対応するほか、近年では特に海外進出支援事業に注力している。また、既設のフィリピン法人に続いて2021年6月にはインドにも自社グループの拠点を設置し、日本の会計業務経験者が駐在員を支援することで、国内と現地の双方から進出実務をサポートしている。

実際にインドでビジネスを行ううえでの困難について、税理士法人日本経営 トータルソリューション事業部 海外チーム 次長の藤井邦夫氏は次のように語る。

「たとえば、消費税にあたる物品サービス税 (GST) は、品目ごとに異なる複雑な税率が設定されているほか、州をまたいだ取引については、州政府と中央政府の2つにわけて計上しなければならないなど、インドにはさまざまな会計ルールが存在します。また、税法そのものが電子化を前提として制度設計されています」

こうしたことから、インド特有の会計ルールや税法、そして電子化に対応するためには、システムの利用が不可欠となる。なお、インド国内では「Tally」と呼ばれるERPパッケージがデファクトスタンダードとなっており、インドに進出した日系企業もTallyを利用することが多い。だが、これも簡単なことではない。

「Tallyは、インドの商習慣にあわせて開発されているため、貸借対照表 (BS) や損益計算書 (PL) の表記の仕方が日本とは大きく異なります。そもそも勘定科目という概念もほとんど持ち合わせていません。したがって日本本社との間で会計情報を共有するためには、Tallyのデータを手作業で仕分けしてスプレッドシート上の月次財務諸表 (MIS) に転記するなど煩雑な手間が発生してしまいます」と藤井氏は語る。

税法への対応や優れた使い勝手を評価 PRの機会となるコンソーシアムにも期待

上記の課題を解決するERPとして、税理士法人日本経営ではGLASIAOUSを検討。実際にインドに進出したある日系企業グループの会計税務処理や記帳代行などのアウトソーシングを請け負うにあたり、GLASIAOUSを提案し、さらに、自社のインド法人でも導入を決めた。

「インドの複雑な税法や電子インボイスにも個別に対応するほか、標準で多言語・他通貨対応している点などを評価しました。また、UIが非常に優れているためデータ入力の使い勝手がよく、記帳代行を請け負ううえでも業務効率化につながると判断しました」と藤井氏は、GLASIAOUSの選定理由を示す。

他のERPでは得られないメリットとして、「GLASIAOUSコンソーシアム」の存在も大きい。これは、会計事務所とIT企業が一体となり、お客様支援を行うと同時に、市場ニーズを共同で検討・最良の製品サービスを市場へと還元することで、クラウド国際会計サービスのデファクトスタンダード

CASE STUDY

専門・技術サービス

税理士法人 日本経営



日本経営グループ
税理士法人日本経営
トータルソリューション事業部
海外チーム 次長
NIHON KEIEI (INDIA)
PRIVATE LIMITED
Director
藤井 邦夫 氏

を目指す組織である。

「たとえば、機能ワーキンググループでは、グローバル会計や税務に関する業務現場の課題解決が真剣に議論されており、その成果を新機能としてフィードバックしていくスキームそのものがGLASIAOUSに優位性をもたらしています」と藤井氏は強調する。

また、GLASIAOUSコンソーシアムは自らのビジネスをアピールする場としても魅力的に映っているとのこと。「インド法人はまだ立ち上がったばかりであり、今後に向けて事業を拡大していくためには、有力な日系企業の皆様に対して積極的に認知を広げていく必要があります。そうした活動の一環として、GLASIAOUSコンソーシアムの活動として、イベント共催やセミナー講演の機会を得られることは、私たちにとってこれ以上ないビジネスチャンスとなります」と藤井氏は語る。

顧客向けと自社向けの双方でフル活用 税法対応と効率的な会計処理を実現

インド法人が顧客向けに導入した GLASIAOUS は、2022年1月に稼働を開始。自社向けに導入した GLASIAOUS についても、既存の会計ソフトからの切り替えを順次進めており、2023年3月までに完全移行する計画だ。

顧客向けの GLASIAOUS については、当初の目的どおり会計税務および記帳代行などのアウトソーシングをフルに担っている。

「インド固有の電子インボイスに対応した標準様式や、入力データに対して適切な勘定科目コードを自動的に割り振って仕分けるマクロなどを B-EN-G が作成し、提供してくれたおかげでスムーズな導入を図ることができました。今後も売掛金の消込処理や取引先への電子インボイスの自動送付など、GLASIAOUS の利用を拡大していくとともに、これを足掛かりとしてグローバル経営や内部統制マネジメントなど、新規のコンサルティングの受注にもつなげていきたいと考えています」と藤井氏は話す。

一方、自社向けに導入した GLASIAOUS についても日本側の ERP との連携を進め、「インド側で行った決算を日本側から承認するといった分業を実現し、グローバル経営の基盤に発展させていきます」と藤井氏は意向を示している。

そして、これらの取り組みから得られた成果や手応えを踏まえつつ、税理士法人日本経営はGLASIAOUSコンソーシアムにおける活動もさらに加速させている。実際に、2022年実績で合計10回を超えるWebセミナーを実施してきた。

「おかげさまで、Webセミナーでは数多くのお客様にご参加いただいております。なかにはリピーターになられる方もいます。地道ながらもこの活動を続けていくことで、確実に新たなリード (見込み顧客) を獲得してまいります」と藤井氏は語った。

税理士法人日本経営では、コンソーシアムおよびB-EN-Gとの連携のもと、GLASIAOUSを基盤とした自らの業務変革とグローバルビジネスの強化を推進していく構えだ。



ビジネスエンジニアリング株式会社



タイ現地法人の財務状況を 把握したい顧客企業をサポート 会計・税務サービスの品質を向上

Hongo Toyo Accounting Co., Ltd.

タイに拠点を構え、日系企業向けに会計・税務サービスを提供しているHongo Toyo Accounting Co., Ltd. (以下、Hongo Toyo Accounting)では、ビジネスエンジニアリング(B-EN-G)のクラウド型国際会計アウトソーシングサービス「GLASIAOUS」を導入。同社の顧客である日本企業の親会社は、タイ現地法人の財務状況をリアルタイムに把握できている。



辻・本郷 税理士法人
HONGO TSUJI TAX & CONSULTING

Hongo Toyo Accounting Co., Ltd.

<https://www.ht-tax.or.jp/>

設立 2017年4月

事業内容 タイにおいて記帳代行、月次税務申告、月次レポート、法人税申告、決算書作成代行、社会保険・給与計算、税務調査対応などの各種サービスを提供。

辻・本郷税理士法人とToyo Business Service PCLの合併により、2017年4月に設立。タイにおいて日本基準の高いクオリティの会計・税務サービスを提供する。辻・本郷税理士法人は、アジア地域ではタイのほか、カンボジア、ミャンマーにも拠点をもち、駐在日本人が現地の日系企業に対して会計・税務サービスを提供している。

改善点 ▶ リアルタイムの財務状況の把握／事務処理のスピードアップと効率化／多言語対応によるタイ独自の勘定科目の把握

導入製品 ▶ GLASIAOUS

POINT ▶ 多言語、多通貨、複数会計基準の管理への対応はもちろん、クラウドサービスであることなどを評価して採用。日本の親会社は、タイの現地法人の財務状況をリアルタイムに把握できるサービスを実現するとともに、入力データの修正の手間を省き、事務処理のスピード化と効率化を実現している。

導入前の課題

- 会計データを出力し、メールで送信する作業に時間と工数がかかっていた
- タイでは独特の勘定科目が多く、顧客の日本本社側では理解しづらい
- タイではスタッフの離職率が高く、継続的な顧客企業へのサポートが必要



導入後の効果

- 日本の親会社がタイの現地法人の財務状況をリアルタイムに把握
- 多言語対応なので、タイで入力された内容も日本側でわかりやすく表示
- クラウドで手軽に情報把握できる利点を活かし、顧客へのサポートも容易に

日本とタイの情報共有の円滑化や 会計スタッフの働き方改革にも寄与

多言語、多通貨への対応や 複数の会計基準へ対応できる点に注目

Hongo Toyo Accountingの親会社である辻・本郷税理士法人は、グループ全体で全国58拠点、1,102名体制の専門特化型、国内有数規模の税理士法人だ。顧客数は1万社を超え、豊富な経験と実績、プロフェッショナル集団としての確固たる組織力が特長だ。

Hongo Toyo Accountingについても、タイの顧客に対して満足度の高い高水準の会計サービスを提供している。タイに進出したいと考えている日本企業に対し、記帳代行や月次税務申告、決算書作成代行などの各種会計・税務サービスを行っている。また、合併先のToyo Business Service PCLは会社設立サポートを行っており、グループでワンストップサービスを提供している。

これまで同社では、スタンドアロンの米国製会計ソフトを使っていたが、顧客企業の親会社がリアルタイムに現地法人の状況を把握できないという課題を抱えていた。

Managing Directorを務める佐藤洋史氏は、「これまでの会計ソフトでは、貸借対照表(BS)や損益計算書(PL)、総勘定元帳などをExcel形式で出力して、メールでお客様に送信する作業に時間と工数がかかっていました。クラウドの会計ソフトであれば、日本の親会社がタイの現地法人の財務状況をリアルタイムに把握できます。このような理由もあり、新たにGLASIAOUSを採用することに決めました」と語る。

佐藤氏はタイに赴任する以前は辻・本郷税理士法人本社(東京)で勤務しており、その際に、ある銀行の担当者からの紹介でGLASIAOUSのことを知ったという。「GLASIAOUSは、多言語、多通貨、複数の会計基準の管理に対応しており、海外展開を進めているお客様にとって海外子会社の管理に非常にメリットがあると感じました」と佐藤氏は当時の印象を語る。

日本からのリアルタイムの状況把握で 事務処理の高速化と効率化を実現

GLASIAOUSの導入においては、実際にユーザーとなるタイ人スタッフの習熟度をいかに向上させられるかが最大のポイントだった。GLASIAOUSには多くの機能があるので、マニュアルを読むだけでは使いこなすことは簡単ではない。

そこで佐藤氏は、「タイ人スタッフは、一般的に保守的な人が多く、あまり新しいことをやりたがりません。そこで、まずは日本語が話せるタイ人スタッフに、日本に出張してもらい、GLASIAOUSの研修を受けてもらうことで習熟度を向上させ、その後、タイに戻ってほかのスタッフにGLASIAOUSの使い方を広げてもらうことにしました」と語る。

GLASIAOUSについて、同社の会計スタッフであるBing

CASE STUDY

専門・技術サービス

Hongo Toyo Accounting Co., Ltd.



Hongo Toyo Accounting Co., Ltd.
Managing Director
佐藤 洋史 氏



Hongo Toyo Accounting Co., Ltd.
General Manager
井口 将来 氏



Hongo Toyo Accounting Co., Ltd.
Junior Consultant
Satita Ratanasuwan(Bing) 氏

氏は次のように語る。「GLASIAOUSは機能が多いので、最初はとまどうこともありました。クラウドの会計ソフトを使ったのも初めてでしたが、使い慣れてくると、1度データを入力すれば、お客様もすぐに参照できますし、お客様からのデータ修正依頼にもすぐに対応できるので便利です」

例えば、ある顧客から「タイの現地法人の連結データを毎月15日までに確定してほしい」という要望があったときに、Hongo Toyo Accountingのスタッフが、GLASIAOUSを使って会計処理を行い、顧客に確認してもらい、修正があればそれを反映するという作業が可能になった。これにより、会計データの修正の手間を省き、事務処理のスピード化と効率化を実現している。

また、General Managerの井口将来氏は、「タイには、独特の勘定科目があるので、これを英語で入力しても日本側ではわからないことがありました。GLASIAOUSは、多言語対応なので、タイ人スタッフが英語で入力した独特な勘定科目を、お客様の本社がすぐに日本語で確認できることも高く評価されています」と話す。

また、場所を問わずに利用できる点もメリットとなっている。「スタンドアロンの会計ソフトは、オフィスに来なければ作業ができませんが、クラウドであるGLASIAOUSは、自宅からでも作業ができるので、スタッフが柔軟に働けるようにもなります」と井口氏。さらに「現在ではタイ語でのサポートが開始され、タイ人スタッフが直接メールや電話でサポートしてもらえるようになったことへの期待も大きいです」と続ける。

クラウド会計ソフトが少ないタイでは GLASIAOUSの導入自体が会社の強みに

今後の取り組みについて井口氏は次のように話す。「現在、Excelで会計処理を行っているが、Invoice発行と記帳が連動したクラウド会計ソフトに移行をしたいというお客様からの依頼が数多くあります。またタイは、スタッフの離職率が高く、経理スタッフが退職したのでサポートしてほしいという依頼も多くあります。こうした要望にも、GLASIAOUSを利用されているお客様であれば、すぐにサポートを開始することができるので、今後もお客様の要望に応えていきたいと思っています」

また佐藤氏は、「タイでは、クラウドで会計サービスを提供している会計事務所はまだ少ないので、GLASIAOUSを導入したこと自体が会社の強みになっています。辻・本郷税理士法人全体としては、タイ以外でミャンマーのスタッフもGLASIAOUSの研修を受けているので、今後はミャンマーなどの拠点にもGLASIAOUSを導入していく計画です。海外子会社の会計ソフトを統一することで、顧客満足度のさらなる向上も期待できます。そのためのサポートを、B-EN-Gには期待しています」と話している。



ビジネスエンジニアリング株式会社



外資顧客企業の税務・会計処理をGLASIAOUSに統合 レポート作成時間はわずか10分 月初の残業時間はほぼゼロに

永峰・三島会計事務所

日本に進出する外資系企業の日本法人に税務・会計サービスを提供する永峰・三島会計事務所では、ビジネスエンジニアリング (B-EN-G) のクラウド型国際会計アウトソーシングサービス「GLASIAOUS」を導入した。顧客企業の記帳をGLASIAOUSで行い、税務・会計のアウトソーシングサービスを提供することで、業務の効率化や属人化の防止を実現している。

Nagamine & Mishima
Accounting practice since 1989

永峰・三島会計事務所

<https://nagamine-mishima.jp/>

設立 1989年9月16日
従業員数 71名 (2019年9月1日現在)
加盟会計団体 Praxity
事業内容 外資系インバウンドサービス、
国際相続をサービスとして提供

1989年9月に設立。従業員が1~20名程度の外資系企業約250社に、英語による記帳代行、税務申告、給与計算、支払代行の4つのサービスを提供している。現在、日本法人の設立からサポートしている会社が半分以上を占める。2019年に、初めて外国人スタッフを1名採用したものの、ほぼ日本人スタッフでサービスを提供。日本の税務や労働協約の深い知識を有するスタッフが、外資系企業向けの税務・会計サービスを提供している。

改善点 ▶ 会計処理の一元化と時間短縮／業務の標準化による属人性の排除／分散処理で残業時間をほぼゼロに／月次レポートの作成が2時間から10分に

導入製品 ▶ GLASIAOUS

POINT ▶ 多言語、多通貨への対応はもちろん、クラウド対応を評価してGLASIAOUSの採用を決定。税務・会計サービスを提供する基盤としての会計システムを使用することで、属人的な働き方から、誰でもすぐに対応できる体制を構築。不明点の問い合わせや機能の改善・追加などに、迅速に対応できるサポート力も高く評価している。

導入前の課題

- 多いときには約10種類の会計システムにデータを入力しなければならず、習熟に時間がかかるだけでなく、業務が属人化していた
- 月次レポートを日本語から英語に翻訳する必要があり、翻訳作業の負荷が高かった
- 英語の会計システムを使うことも検討したが日本の消費税や源泉所得税などへの対応が困難だった



導入後の効果

- 一部の顧客企業の会計システムを統一できたことで作業が効率化。10種類使っていた会計システムの数を半減できた
- 約2時間かかっていた月次レポートの作成と翻訳を10分程度に短縮した
- 5人チームで月初に必ず発生していた残業が3人のチームでほぼゼロになった

多言語、多通貨、クラウド対応を評価して採用を決定 国産会計システムよりも使いやすいとスタッフからも高評価

顧客への税務・会計サービスに 多数の会計システムを使用しており負担が増加

永峰・三島会計事務所ではこれまで、ある国産会計システムを使って外資系企業向けに会計・税務のサービスを提供していた。しかしその国産会計システムは日本語にしか対応していないことから、顧客企業向けの月次レポートを日本語で作成し、その後、英語に翻訳することが必要だった。会計グループパートナーの西進也氏は、「月次レポートとして、財務データをExcelデータとして提供するだけで済む顧客企業もありますが、半分以上の顧客企業は、英語に翻訳したレポートを提供する必要がありました」と語る。

また、顧客企業が指定した英語のインターフェースの会計システムに、担当スタッフがデータを入力し、入力されたデータを自由に活用したいという要望も多かった。そのため、多いときには、約10種類の会計システムにデータを入力しなければならなかった。複数の会計システムを使う場合、習熟に時間がかかるうえ、操作を覚えたスタッフを簡単にほかの業務へ変更できないことも課題だった。西氏は、「属人的な働き方から、誰でもすぐに対応できる柔軟な働き方への改革も必要でした」と話す。

こうした課題を解決するために同事務所が採用したのがGLASIAOUSだ。選定のポイントについて西氏は次のように振り返る。

「月次レポートを英語に訳したり、複数の会計システムを使ったりすることなく、組織の強さを発揮できる環境を実現したいと思っていました。英語の会計システムを使うことも検討しましたが、日本の消費税や源泉所得税などへの対応が困難です。そうした中で2015年ごろ、B-EN-Gの担当者から紹介され、GLASIAOUSの存在を知りました。多言語、多通貨の対応はもちろん、クラウド対応するということを知って採用を決めました」

同事務所では、新規でサービスを提供する顧客企業から、GLASIAOUSの利用を開始。現在、顧客企業から会計システムの指定がなければGLASIAOUSを使ってサービスを提供しており、現在、約100社で利用している。

レポート作成時間を大幅に短縮 必ず発生していた月初の残業もゼロに

GLASIAOUSを導入したことで、永峰・三島会計事務所ではさまざまな効果を実感している。これまで同事務所は、提出するExcelレポートのフォーマットが顧客によって異なっていたため、複雑なものを求める顧客に対しては、レポートの作成に1～2時間はかかっていた。しかしGLASIAOUS導入後は、データを入力して顧客企業に報告のメールを送信するだけで作業が終了するため、2時間の作業を10分程度に短縮することができた。

CASE STUDY

専門・技術サービス

永峰・三島会計事務所



永峰・三島会計事務所
会計グループ パートナー
西進也 氏



永峰・三島会計事務所
国際税務グループ
シニアスタッフ
滝田 光大 氏

「会計処理全般にいえることですが、スタッフが欲しいタイミングで、必要なデータがすべてそろえることはほとんどありません。これも忘れた、あれも忘れたということで、あとから顧客が経費や売上情報を提出してきます。そのため、都度レポートの作り直しが必要でした。一方でGLASIAOUSでは、システム上でデータを見てもらえばよいので、『取引データを追加したので、再度データを確認してください』という連絡をするだけで済みます」(西氏)

また、国際税務グループ シニアスタッフの滝田光大氏も導入の効果について次のように説明する。

「売掛金や買掛金も、以前は入力の手間ができませんでした。手空きのスタッフに入力を頼むことができるようになりました。処理が標準化されたことで、属人化も解消されました。以前は、5人1組のチームで月初には必ず残業をしていましたが、いまでは3人のチームで、残業はほぼゼロです」

こうした業務効率化はGLASIAOUSの機能面によるところも多い。「国産の会計システムでは、円単位でしか金額を入力できませんでしたが、GLASIAOUSでは、円でも、ドルでも、ユーロでも、パーツでも入力できるので、処理が非常に簡素化されます」と滝田氏。さらにその使い勝手についてもこう続ける。

「最初の設定には少し時間がかかりましたが、1度設定してしまえば簡単に使えます。スタッフも、いまでは国産会計システムよりGLASIAOUSの方が使いやすいと話しています。なおB-EN-Gのサポートに関しては、不明な点があったときに問い合わせをすると、すぐに対応してもらえるので非常に満足しています」

使っていた会計システムの数は半分に さらなる活用の用途も計画

GLASIAOUSを導入したことで、会計・税務業務そのものの効率化はもちろん、これまで顧客ごとに使い分けていた会計システムの統一化が進んだことも大きなメリットだ。これまで、多いときに10種類近く使い分けていた会計システムの数は、今では半分にまで削減されている。さらに今後は、別のサービスの基盤にもGLASIAOUSを活用する計画だという。その1つが支払代行のサービスだ。

「2020年までに支払代行をGLASIAOUSに実装できれば、現在2つの業務フローで行っている処理を1つに統合できるので、デジタル化のメリットを享受できます」と西氏は期待を示す。さらに「立替経費の精算をスマートフォンのカメラで撮影し、OCR機能でGLASIAOUSに直接入力できる機能が搭載されることも期待しています。これにより、スタッフが経費処理に時間を費やすこともなくなり、作業負担を軽減できます。こうした機能強化や今後のサポートも含め、B-EN-Gに期待しています」と話している。



ビジネスエンジニアリング株式会社



Kompass Accounting Co., Ltd.

長年にわたり、タイに進出した日系企業に対して会計・税務業務のアウトソーシングサービスを提供してきたKompass Accountingは、顧客の増加に伴い多様化するニーズに応えようと、サービス提供の基盤に用いる会計ソフトをビジネスエンジニアリング (B-EN-G) の「GLASIAOUS」にリプレース。その豊富な機能と柔軟な拡張性を生かすことで社内スタッフの業務を効率化し、顧客に対してより高い付加価値を提供できる体制を整えた。



Kompass Accounting Co., Ltd.

<https://www.tellusgp.com/KOMPASS.html>

創 立 2006年

事業内容 タイ国会計基準に基づく会計記帳、月次・期次決算書の作成、タイ歳入法に基づく月次・年次税務申告書の作成、連結財務諸表作成のための資料作成、月次の会計・税務レビュー、月次給与計算（給与サマリー、給与スリップ、所得税申告書、社会保険申告書作成及び給与振込）

2006年の創業以来、タイにおいて一貫して迅速かつクオリティの高い会計、税務、給与業務のアウトソーシングサービスを多数の日系企業に提供し、高い評価を獲得してきた。日本で14年、タイでは20年の実務経験を持つ公認会計士の日本人マネージングダイレクター1名と、その他はすべてタイ人スタッフという組織体制のもと、コンサルティング事業者などと協業し、法務・税務・会計に関する総合サービスを展開している。今後もクラウドやAIといったテクノロジーを積極的に取り入れ、スピーディーかつ品質の高いサービスを提供していくことを自らの使命としている。

会計アウトソーシング基盤を GLASIAOUSに刷新 タイ日系企業のニーズへ 柔軟に応えられるように

キーワード 外貨管理／ハイブリッドワークへの対応／大量のデータを高速にインポート・エクスポート／全従業員を対象とした教育トレーニング

導入製品 GLASIAOUS

POINT GLASIAOUSの定着化に際して、マネージャーからスタッフまで全従業員を対象とした教育トレーニングが重要な役割を果たした。従業員にGLASIAOUS導入を「自分ごと」としてとらえてもらえるよう促し、ツールの持つさまざまな機能に興味を持ってもらうことで、Kompass Accounting にとって有用な使い方を見つけられた。

導入前の課題

- 多様化する顧客へのニーズにExcelで個別に対応しており業務の工数が増大していた
- 従来の会計ソフトでは定型的な帳票出力しかできず柔軟性が欠けていた
- システムへリモートアクセスする際にはセキュリティ面で不安があった



導入後の効果

- GLASIAOUSを介して顧客への情報伝達が効率化。Excelのデータ加工作業も不要に
- 外貨管理などをはじめ、グローバル対応に必要な機能がそろい業務を大幅に効率化
- 本格的なクラウド対応により在宅環境でもオフィスと同様に業務を遂行可能に

多様化する顧客からのニーズに対応できる 高度な会計アウトソーシングサービスの基盤を確立

多様化する顧客のニーズに Excelでの手作業では対応しきれない

Kompass Accountingは、在タイ日系企業に対してクオリティの高い会計・税務業務のアウトソーシングサービスを提供している。サービス内容について、同社 マネージングダイレクター 小林一雅氏は「タイ国会計基準に基づく会計記帳代行をはじめ、月次・期次決算書の作成、タイ歳入法に基づく月次・年次税務申告書の作成、給与計算まで多岐に渡ります」と語る。

だが、顧客が増加するにつれ、多様化するニーズに対応しきれないケースが発生するようになった。

「従来の会計ソフトは定型的な帳票しか出力できず、例えば『途中経過でもかまわないので、売上や経費の推移を見たい』といったお客様のリクエストに柔軟にお応えすることが難しかったのです。こうしたリクエストに、当時はデータをExcelに取り込んで加工して報告書を作成するなどして対応しており、作業工数は膨らんでいくばかりでした」（小林氏）

加えてコロナ禍が拡大したことで、従来の会計ソフトの不便さも浮き彫りになった。同ソフトはクラウド対応をうたっていたもののセキュリティ面で不安が残る仕様だったため、在宅勤務に移行したスタッフたちに安全なリモートアクセスの環境を迅速に提供することができなかった。

GLASIAOUSへのリプレースで 業務効率化と柔軟な働き方を実現

上述の課題を解決すべくKompass Accountingは2022年に会計ソフトのリプレースを決断し、GLASIAOUSを選定した。

「グローバルな会計・税務業務に対応したソフトは多々あります。しかし、当社のような会計事務所が複数のお客様に提供するアウトソーシングサービスの基盤として利用でき、なおかつクラウドで提供されるソフトはGLASIAOUSのほかにありませんでした」（小林氏）

こうして同社は、まずは自社を含めた5社からGLASIAOUSの運用をスタートし、その効果を確かめることにした。

初めてGLASIAOUSを使ってみた時の印象について、同社 シニアアカウントマネージャー ナワボン タナブン氏は、「大量のデータであっても高速にインポート/エクスポートできることに驚きました。またコロナ禍以降、私はリモートワークに移行しているのですが、自宅のPC環境からもセキュアかつスムーズにシステムにアクセスし、オフィス勤務の場合と変わらず業務をこなせることに感激しました」と振り返る。

さらに同社 チームリーダー チャワリット ティラタナコン氏も続ける。

「以前の会計ソフトには外貨管理の機能がなく、金額を事前にタイの通貨に変換してから入力しなければならなかったのですが、GLASIAOUSを使えばその手間を省けます。日本円を含めた外貨のまま入力できる上に、最新の為替レートをBOT（タイ中央銀行）から自動取得できる機能もとても便利だと思いました」

CASE STUDY

会計事務所

Kompass Accounting Co., Ltd.



Kompass Accounting Co., Ltd.
マネージングダイレクター
小林 一雅 氏



Kompass Accounting Co., Ltd.
シニアアカウントマネージャー
ナワボン タナブン 氏



Kompass Accounting Co., Ltd.
チームリーダー
チャワリット ティラタナコン 氏

全従業員への教育トレーニングを経て 約60社に及ぶ顧客への全面展開を実施

5 社による運用を開始した初年度には、GLASIAOUS によって大きな効果を得られると Kompass Accounting は確信。翌 2023 年から一挙に約 60 社に及ぶ同社の顧客に対して GLASIAOUS を全面展開した。その狙いについて、小林氏は「従前の会計ソフトも活用したままでは、オペレーションもノウハウも二重化してしまいます。そのため、できる限り早期に GLASIAOUS に一本化したいと考えました」と語る。

もっとも、GLASIAOUS はスタッフにとっては初めて触れるツールとなる。不慣れな操作によるトラブルや、業務プロセスの大幅な変更に対する反発を招くことなく、同社はいかにして GLASIAOUS を定着化させたのか。その重要な要因の 1 つが Kompass Accounting のマネジメント体制だ。タイ人マネージャーやリーダーが、タイ人スタッフを管理できる体制を確立できており、会計システム刷新という決断をスタッフ全員が「自分ごと」として認識できる環境にあった。小林氏は、マネージャークラスの社員からの相談にも真摯に対応し、こまめにコミュニケーションを心がけていたという。

スタッフの「自分ごと化」に一役買ったのが、B-EN-G 本社および B-EN-G タイのサポートのもと、マネージャーからスタッフまで全従業員を対象に 3 回にわたって実施したトレーニングである。質疑への回答もタイ語でスムーズに行われ、GLASIAOUS 活用のためのスキル習得を促し、GLASIAOUS の豊富な機能にも目を向ける契機にもなったという。

「基本的にオンラインですが、一部のマネージャーについてはオンサイトでトレーニングを行っていただきました。この取り組みによってチームリーダーを育成できたことはもちろん、GLASIAOUS 活用において日々発生する疑問点にもある程度社内に対応していけるようになりました」（小林氏）

顧客とスムーズな連携を取るために GLASIAOUSをさらに活用したい

アウトソーシングサービスの基盤を GLASIAOUS へリプレースしたことで、顧客との関係性にも大きな変化が表れ始めている。

「従来のように Excel のデータをお客様へ受け渡す必要はなくなりました。お客様自身が直接 GLASIAOUS にアクセスすることで、当社側のデータ加工の工数削減やお客様に情報を提供する時間短縮につながり、財務諸表のレビューにもスムーズに移行できます。これからは、売上や請求などのデータを随時シェアしてほしいといったお客様の要望にも柔軟に応えられるようになり、適切な役割分担が可能になると考えています」（小林氏）

小林氏は、実装が予定されている AI 機能の動向にも目を向けており、「お客様や社内のコミュニケーションに役立てるほか、将来的には様々な帳票の読み込みから仕訳まで自動化していきたいと考えています」と語り、顧客へのさらなる価値提供を実現すべく同社の会計アウトソーシングサービスをより進化させていこうとしている。



ビジネスエンジニアリング株式会社

26カ国34拠点に展開するグローバル コンサルティングファームが、GLASIAOUSで 顧客会計データの一元管理と顧客サービスの品質を向上

株式会社 東京コンサルティングファーム

日本企業の海外進出支援を専門とする東京コンサルティングファーム (TCF) が、多国籍展開する顧客企業のクロスボーダー会計業務効率化を実現するため、ビジネスエンジニアリング (B-EN-G) のGLASIAOUSを導入。TCF 海外拠点の会計基盤統一により、顧客会計データの一元管理を実現し、さらに顧客の本社ガバナンス強化と月次決算早期化にも貢献。顧客サービスの品質を向上させた。



キーワード 多国籍企業対応 / クロスボーダー会計業務効率化 / ガバナンス強化 / リアルタイム管理 / 月次決算早期化 / 顧客サービス強化 / コンソーシアム活動 / AI 機能

導入製品 GLASIAOUS

POINT GLASIAOUSは多国籍で使える会計システムとして、大企業向けシステムと異なり、中小・中堅企業でも導入しやすい価格帯でありながら、本社による内部統制やモニタリングが可能な点を評価。また、コンソーシアム活動を通じてシステム改善に実務専門家の意見を反映できる仕組みも決め手となった。

TCG

株式会社東京コンサルティングファーム

<https://kuno-cpa.co.jp/>

創業 1998年

事業内容 日本企業の海外進出支援、会計・税務・監査・法務・労務サービス、クロスボーダーM&A アドバイザリー

1998年に公認会計士の久野康氏が監査法人から独立して設立。2007年の日本の会計事務所として初のインド進出を皮切りに、現在26カ国34拠点でグローバル展開している。中小・中堅企業を中心とした日本企業の海外進出において、財務・会計・税務を中心としたバックオフィス業務全般をワンストップで支援。近年はクロスボーダーM&A アドバイザリーにも注力し、進出から運用まで一貫したサービス提供を行っている。

導入前の課題

- 各国でローカル会計ソフトが使用されており、多国籍展開する日系企業の統一的な管理ができていなかった
- 本社による海外拠点のモニタリングやガバナンス体制構築が困難だった
- 大企業向けシステム以外に、中小・中堅企業が利用できるグローバル対応会計システムの選択肢が限られていた



導入後の効果

- 多国籍で統一された会計システム基盤により、日系企業の本社による海外拠点のリアルタイム管理を実現
- 月次決算の早期化により、駐在員のレポートング負担を大幅軽減
- バックオフィス業務の標準化により、顧客企業がより本業に専念できる体制を構築

国際会計&ERPサービスを活用し事業基盤を強化 クロスボーダー業務の効率化で新たな顧客価値を創造

多国籍企業の会計基盤として 最適なソリューション

日本企業の海外進出支援を専門とする東京コンサルティングファームは、1998年に公認会計士の久野康成氏（現会長）が監査法人から独立して設立。日本で培った経験を活かし、業界に先駆けた海外展開を推進。2007年のインド進出を皮切りに、現在は26カ国34拠点まで拡大している。

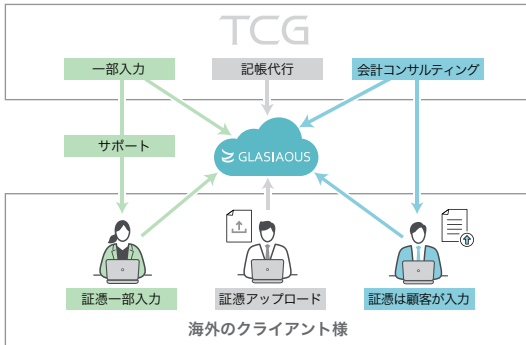
東京コンサルティングファームが、グローバル展開する顧客の会計データ管理における課題解決のため、選択したのがGLASIAOUSである。同社代表取締役・CFO 小林 祐介氏は「当時、中小・中堅企業が導入できる価格帯で、多国籍企業のクロスボーダー業務に対応でき、日本本社による内部統制やリアルタイム監視が可能なシステムは、市場にほとんど存在しませんでした。大企業向けのシステムでは、コストが高く中小・中堅企業には現実的な選択肢ではありませんでした」と振り返った。

そうした中、B-EN-GからGLASIAOUSを活用した会計基盤統一の提案を受けた。「B-EN-Gからの提案は、私達が目指す顧客価値と一致していました。特に、GLASIAOUSによる海外拠点の財務・会計統一管理で、クロスボーダー業務の効率化を実現できるコンセプトに強い魅力を感じました。GLASIAOUSの導入は、中小・中堅企業が多く、ローカル会計ソフトが主流だったタイ拠点から開始しました」（小林氏）

顧客企業の本社管理体制強化により 業務効率化を実現

GLASIAOUS導入後、多国籍企業の日本本社から高い評価を得られた。同社 海外統括部長 高橋 周平氏は「顧客企業からは『月次決算の早期化により経営判断スピードが向上した』『海外拠点での記帳内容を本社からリアルタイムで確認できるようになった』といった評価をいただいています。その結果として『本社の管理体制が抜本的に強化され、駐在員の報告業務負担が大幅に減った』という声も多く聞いています」と語った。

特にクロスボーダー業務における内部統制の観点で顕著な効果が現れたという。「現地会計スタッフが業務の中心を担い、駐在員の関与が限定的な企業ほど、横領事件などの不正リスクが高まる傾向があります。日本本社によるリアルタイム管理機能は、こうした不正を未然に防ぐ強力な対策として非常に有効です」（高橋氏）



CASE STUDY

会計事務所

株式会社

東京コンサルティングファーム



株式会社東京コンサルティングファーム
代表取締役・CFO

小林 祐介氏



株式会社東京コンサルティングファーム
海外統括部長

高橋 周平氏

実務専門家の視点からシステム改善に 貢献するコンソーシアム活動

小林氏は現在、GLASIAOUSコンソーシアムの副委員長として、サービス開発や機能改善にも積極的に関与している。

「システム提供会社と実務専門家、エンドユーザーが一体となってサービス向上に取り組むコンソーシアム形式は、他ではあまり見られない独特な仕組みです。これもGLASIAOUSの大きな強みだと実感しています。通常システム改善はエンドユーザーからの声に基づいて行われますが、企業ごとに会計処理やオペレーションが異なるため、意見をまとめるのが難しいという課題があります。しかし、このコンソーシアムには、実務の専門家が集結しており、実際の顧客支援で得られた具体的な改善提案を直接フィードバックできるため、機能改善の質が高く、システムの改善サイクルが早くなると評価しています」（小林氏）

AI機能への期待と 今後の高付加価値サービス展開

今後同社が特に期待を寄せているのが、AIを活用した財務・会計支援機能である。会計業務では入力作業が最も人手と時間を要し、人的ミスも発生しやすいため、システムによる自動化とエラー防止機能が強く求められている。GLASIAOUSは、既に実装済みの請求書自動読み込み機能（AI-OCR）に加えて、今後は財務諸表の分析から予測まで行うAI機能の実装に取り組み、財務・会計業務の自動化を目指している。

「GLASIAOUSが、今後継続してAI機能を実装・強化していくと伺い、大きな期待を寄せています。製品品質の向上には、私たちが積極的に協力していきたいと考えています」（小林氏）

高付加価値コンサルティングへの転換と クロスボーダーM&A支援

今後の展望について、同社は大きな変革の必要性を語る。

「現在の本業は財務・税務・監査・法務・労務といった、いわゆる守りの分野が中心です。しかし日本の少子高齢化により労働力確保がますます困難になることが予想されます。そのため、手続きなどの業務は可能な限り効率化・省人化し、経営改革・経営改善などの高付加価値業務への比重を高めることを目指しています」（小林氏）

その一環として、26カ国34拠点というグローバルネットワークを活かしたクロスボーダーM&A支援サービスを新たに開始した。

「地産地消型ビジネスモデルの構築を検討する企業が増加しており、売り手企業のソーシングや資本提携形態での進出サポート案件が拡大しています。多くのM&A仲介会社が海外拠点を持たない中、私たちは既に世界各国に駐在員と現地スタッフを配置しているため、買収後の運用サポートも含めた一貫したサービス提供が可能です」（高橋氏）

同社は今後も、GLASIAOUSを基盤とした顧客企業の経営支援を通じて、グローバル市場での成長を実現していく方針である。

B-EN-G

ビジネスエンジニアリング株式会社

www.glasiaous.com

※記載された内容は2025年8月現在のものです。